

V3.1

Reach-Out User's Manual

キュレーション・サポートツール VERSION 3.1

シーベライズ株式会社

目次

はじめに.....	5
概要.....	5
動作環境.....	5
インストール方法.....	5
第1章 プログラムの起動と設定.....	6
1.1 自動認証.....	6
1.2 初期画面.....	6
1.3 環境設定.....	7
1.3.1 環境設定画面.....	7
1.3.2 画面サイズ.....	8
1.4 認証情報設定.....	9
1.4.1 認証手順その1 (フリー版シリアル番号の取得).....	9
1.4.2 認証手順その2 (フリー版シリアル番号の有効化).....	11
1.4.3 認証手順その3 (ライセンスの更新).....	13
1.5 ライセンス購入.....	15
1.5.1 入力データ.....	15
1.5.2 認証サーバへデータ送信.....	16
1.6 プロモーション.....	17
1.7 マニュアル.....	19
第2章 テーマの追加と削除.....	20
2.1 テーマの追加.....	20
2.2 テーマの削除.....	21
第3章 テーマの表示.....	23
3.1 テーマの選択.....	23
3.2 テーマのツリー表示.....	23
3.3 ツリー構造.....	24
3.3.1 ノードの登録.....	24
3.3.2 ツリー表示の原則.....	24
3.3.3 ツリー構造での機能.....	25
3.3.4 ツリーのドラッグ&ドロップ機能.....	26
3.3.5 ドラッグ&ドロップ機能の原則.....	27
3.3.6 セクションの機能.....	28
3.4 カテゴリー機能 (PRO 版機能).....	29
3.4.1 分類設定.....	29
3.4.2 カテゴリー名称の編集.....	29
3.4.3 カテゴリーの選択.....	31
3.4.4 テーマの分類方法.....	32
第4章 ブラウザ・ナビゲーション.....	34
4.1 ブラウザ制御.....	34
4.2 ナビゲーション・ペイン.....	34
4.2.1 ブラウザ・前画面へ戻る.....	34
4.2.2 ブラウザ・次画面へ進む.....	34
4.2.3 検索エンジン起動.....	35
4.2.4 ナビゲート.....	35
4.2.5 DB 登録.....	35
4.2.6 コピーアドレス.....	35
4.2.7 キャプチャ画像表示.....	35
4.2.8 スクリプト制御.....	35

4.2.9	エディタ起動.....	36
4.2.10	ローカルファイルのドラッグ&ドロップ.....	36
4.2.11	ズーム機能.....	36
4.3	インターネットオプション.....	37
4.3.1	インターネットオプションの起動方法.....	37
4.3.2	自動更新処理のための設定.....	38
第5章	テキストエディタ.....	39
5.1	内蔵テキストエディタ概要.....	39
5.2	カットバッファ.....	39
5.2.1	フィルター・プルダウンリスト.....	39
5.2.2	カットバッファの機能ボタン.....	40
5.2.3	テキスト編集パネルの表示と選択.....	40
5.3	テキストエディタ.....	41
第6章	高度な機能.....	43
6.1	ツリー自動生成.....	43
6.1.1	ツリー自動生成の起動方法.....	43
6.1.2	自動生成条件の設定 (PRO 版機能).....	44
6.1.3	ツリー自動生成の実行.....	45
6.1.4	自動更新処理の起動.....	46
6.2	ノード自動更新.....	47
6.2.1	ノード自動更新の起動方法.....	47
6.2.2	自動更新処理の設定 (PRO 版機能).....	48
6.2.3	自動更新処理の実行.....	48
6.2.4	ノード自動更新の中止.....	48
6.2.4	ノード自動更新の制限.....	50
6.3	画像巡回.....	51
6.3.1	画像巡回の起動方法.....	51
6.3.2	イメージビューワ.....	52
6.3.3	コントロールパネルの機能.....	52
6.3.4	画像クリップ方法.....	53
6.3.5	イメージビューワとブラウザの連動.....	56
6.4	レポート.....	57
6.4.1	レポート機能の起動方法.....	57
6.4.2	レポートファイルの表示.....	58
第7章	データポータビリティ機能.....	59
7.1	テーマ・エクスポート機能 (PRO 版機能).....	59
7.1.1	エクスポートの起動方法.....	59
7.1.2	エクスポートされたファイル.....	60
7.2	テーマ・インポート機能.....	61
7.2.1	インポートの起動方法.....	61
7.2.2	インポートされたファイル.....	62
7.3	テンプレート機能.....	63
7.3.1	テンプレート機能の起動方法.....	63
7.3.2	テンプレートの適用例.....	64
付録A	Twitter 投稿のDB登録方法.....	65
A.1	検索エンジンをTwitterに設定する.....	65
A.2	テーマを登録する.....	65
A.3	テーマにセクションを追加.....	65
A.4	記事を選んで表示.....	66
A.5	[DB登録]ボタンを押す.....	66
A.6	オーバーレイを閉じる.....	67

付録B サンプルデータ	68
B.1 サンプルデータのインポート	68
B.2 サンプルデータの利用.....	70
B.2.1 画像巡回機能.....	70
B.2.2 自動更新機能.....	72

はじめに

概要

"Reach-Out" (リーチアウト) は、インターネットを使用した情報収集・ドキュメント作成ジョブを支援するキューレーションサポート用 PC アプリケーションプログラムです。

動作環境

本ソフトウェアの動作可能な環境は以下の通りです。

OS:	Windows 10 (Windows 7 以降で動作可能ですが保証外です)
モニター:	SXGA(1280x1024)以上
メモリー:	2GB 以上を推奨
ネットワーク:	TCP/IP 接続
ブラウザ:	Internet Explorer 11.0 (内蔵ブラウザで使用)

インストール方法

- 1) メディア (CD-ROM/DVD) がある場合は、そのディスクのルートにある Setup.exe を実行します。ネットワークで取得した場合は、ダウンロードしたファイル (zip) を適当なディレクトリに展開 (解凍) し、作成されるファイルの中から Setup.exe を実行します。
- 2) Setup.exe が実行されるとインストーラが起動されますので指示に従って項目を選択し、インストールを完了させて下さい。
- 3) インストール完了後は、デスクトップ上にプログラムアイコンが作成されます。

第1章 プログラムの起動と設定

1.1 自動認証

プログラム起動時には自動認証が行われます。その結果により、**機能レベル**が決定されます。

- 1) 機能レベル0 (**デモ版**)
 1. インストール時の状態です。
 2. 全ての機能が使用できます。
 3. テーマは1個のみ使用可能ですが保存されません。
 4. 使用可能期間の制限はありません。
- 2) 機能レベル1 (**フリー版**)
 1. 無料で使用できるバージョンです。
 2. 標準版機能が使用できます。
 3. テーマの新規登録は5個まで可能です。
 4. 使用可能期間の制限はありません。
 5. フリー版の使用開始には電子メールアドレスの登録が必要です。
- 3) 機能レベル2 (**標準版**)
 1. 有料の期間ライセンスバージョンです。
 2. 標準版機能が使用できます。
 3. テーマの新規登録の個数制限はありません。
 4. 使用可能期間はライセンスの有効期限までです。
 5. その期間を過ぎると機能レベル1に戻ります。
- 4) 機能レベル3 (**プロ版**)
 1. 有料の期間ライセンスバージョンです。
 2. プロ版機能を含む全ての機能が使用できます。
 3. テーマの新規登録の個数制限はありません。
 4. 使用可能期間はライセンスの有効期限までです。
 5. その期間を過ぎると機能レベル1に戻ります。

1.2 初期画面

起動が完了すると**認証結果表示画面**と**認証情報設定画面** (1.4項参照)が表示されます。

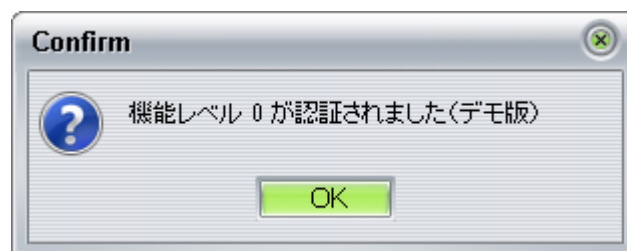


Figure 1.2 認証結果表示画面

認証結果表示画面と認証情報設定画面を閉じると初期画面になります。初期画面では、内蔵ブラウザに製品サイトが表示されます。

1.3 環境設定

1.3.1 環境設定画面

[設定]メニューから[環境設定]を選択すると環境設定画面が開きます。

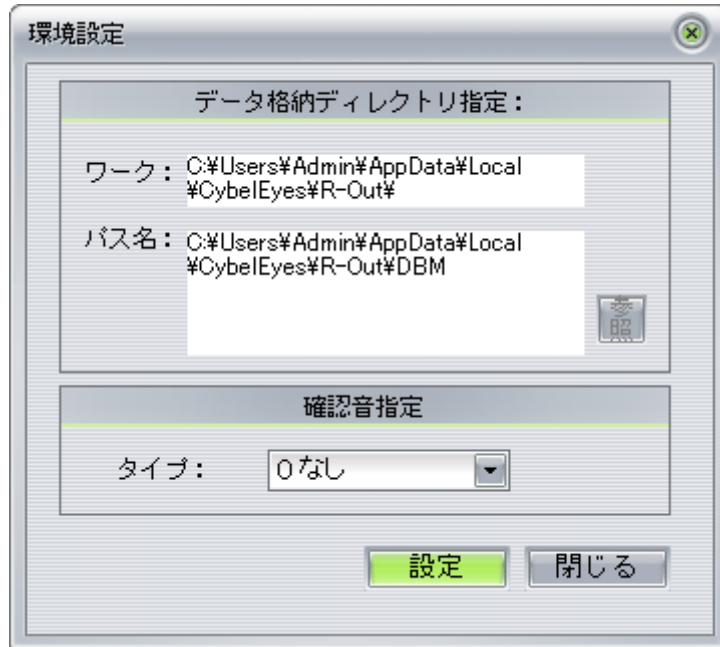


Figure 1.3.1.1 環境設定画面

- 1) **ワーク**はプログラムに割り当てられた作業領域を表し、変更できません。
- 2) **パス名**はデータが保存されるディレクトリを表しており、書き込み可能なパスに変更することができます。[参照]ボタンを押すとパスを選択できます。(機能レベル2以上で利用可能)
- 3) **確認音指定**は作業時の確認音を指定するものです。プルダウンしてタイプを選択します。タイプを選択すると鳴音します。



Figure 1.3.1.2 確認音指定

[設定]ボタンを押すとデータを保存します。

設定が保存されると以下の確認メッセージが表示されます。

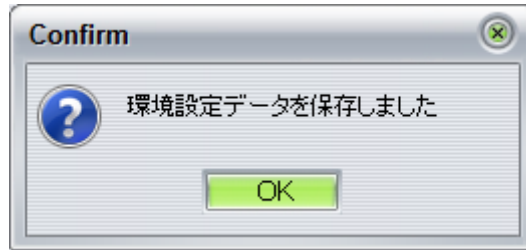


Figure 1.3.1.3 環境設定・確認画面

パス名を変更した場合は以下のメッセージが表示され、プログラムの再起動が必要になります。

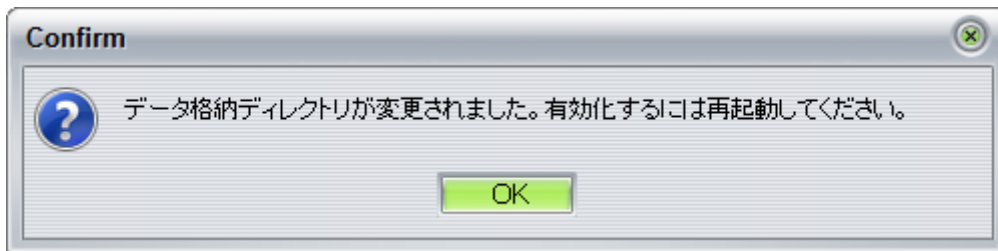


Figure 1.3.1.4 環境設定・再起動確認画面

1.3.2 画面サイズ

プログラムのメイン画面とエディタ画面はサイズ変更可能です。

1) ボーダーアイコンによるリサイズ



Figure 1.3.2.1 ボーダーアイコン

アイコンは左から、「最小化」(メイン画面のみ)「最大化」「閉じる」です。
「最小化」アイコンをクリックするとウィンドウが閉じ、タスクトレイに格納されます。
「最大化」アイコンをクリックするとスクリーン全体にウィンドウが表示されます。
いずれの場合も再度クリックすると元の大きさに戻ります。

2) マウสดラッグによるリサイズ

ウィンドウの枠をマウスでドラッグすることでリサイズが可能です。
メイン画面は起動時に設計サイズ (1194x913) に初期化されます。
エディタ画面はプログラム終了時のサイズが記録され、再起動時にはそのサイズに復帰します。

1.4 認証情報設定

[設定]メニューから[認証情報設定]を選択すると**認証情報設定画面**が開きます。

The screenshot shows a dialog box titled "認証情報設定" (Authentication Information Setting). It is divided into three main sections:

- 認証データ (Authentication Data):** Contains "マシンID" (Machine ID) with the value "BCAEC5119FBC" and "シリアル番号" (Serial Number) which is currently empty.
- ユーザ登録データ (User Registration Data):** Contains "登録名" (Registered Name) and "メールアドレス" (Email Address), both of which are empty.
- ライセンス (License):** Contains "状態" (Status) set to "■未認証状態■" (Not authenticated state), "機能レベル" (Function Level) set to "デモ版" (Demo version), and "有効期限" (Validity Period) which is empty.

At the bottom of the dialog, there are three buttons: "取得" (Obtain), "有効化" (Activate), and "閉じる" (Close).

Figure 1.4 認証情報設定画面

- 1) **マシンID**は端末に割り当てられた物理アドレスを表し、変更できません。
- 2) **シリアル番号**はライセンスに対応した14桁の数字です。(初期値は空欄です)
- 3) **登録名**はユーザ登録がされている場合にその登録名を表します。
- 4) **メールアドレス**はユーザ登録がされている場合にその電子メールアドレスを表します
- 5) **状態**はライセンスの状態と次に行える作業を表します。
- 6) **機能レベル**は認証されているライセンスの種類を表します。
- 7) **有効期限**はライセンスが期限付の場合、その有効期限を表します。

1.4.1 認証手順その1 (フリー版シリアル番号の取得)

プログラムをインストール直後の初期状態では、認証情報設定画面はFigure1.4のようになります。(機能レベル=デモ版)

無償のフリー版を利用するにはには、ライセンス登録を行い、シリアル番号を取得した後にそれを有効化しなければなりません。

シリアル番号を既に入手している場合は、以下のステップをスキップして「1.4.3 認証手順その3」に進んで下さい。

そうでない場合は、この画面で**[取得]**ボタンを押すと次ページの画面が表示され、ライセンスシリアル番号の送り先電子メールアドレスの入力が求められます。

ライセンス登録

ライセンス登録の手順

- ①本フォームでライセンス取得要求を認証サーバに送信する
(PCのMACアドレスと登録名、電子メールアドレスが送信される)
- ②認証サーバでシリアル番号が発行される
- ③入力した電子メールアドレス宛にシリアル番号が通知される
- ④認証情報設定画面でシリアル番号を入力し、有効化する
- ⑤フリー版の機能が有効になる

登録名

全角23文字以内

電子メールアドレス

入力

確認入力

半角47文字以内

登録 閉じる

Figure 1.4.1.1 ライセンス登録画面

任意の登録名と電子メールアドレスを入力後、[登録]ボタンを押すと以下の確認画面が表示されます。

Confirm

認証サーバにライセンス取得要求を行います。

OK Cancel

Figure 1.4.1.2 シリアル番号発行確認画面

この画面で[OK]ボタンを押すと認証サーバにデータが送られ、完了すると以下の確認画面が表示されます。

Confirm

ライセンス取得要求を受け付けました

OK

Figure 1.4.1.3 シリアル番号要求受付画面

この段階でシーベライズ株式会社(webmaster@cybeleyes.co.jp)から「ライセンス通知」という題名で、製品名とシリアル番号が記された電子メールが入力した電子メールアドレス宛に送られます。

1.4.2 認証手順その2 (フリー版シリアル番号の有効化)

シリアル番号発行要求が完了した段階では、認証情報設定画面は以下のように表示されます。

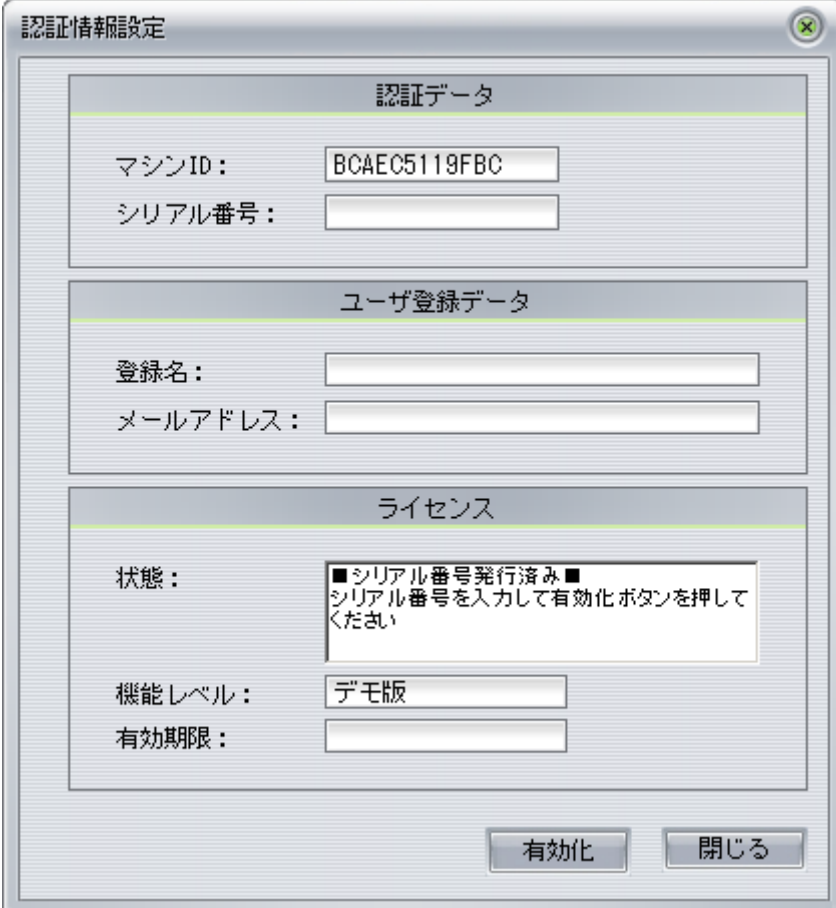
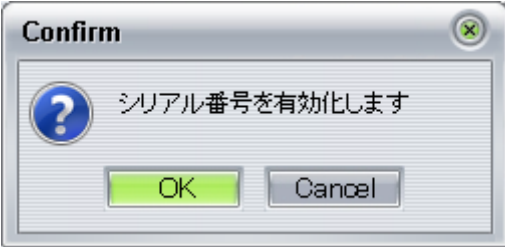


Figure 1.4.2.1 認証情報設定画面

ここで送られてきたシリアル番号を入力し、[有効化]ボタンを押します。

Figure 1.4.2.2 ユーザ認証確認画面



確認画面が表示されるので[OK]ボタンを押します。

機能レベル1 (フリー版) が認証され、以下の認証結果画面が表示されます。

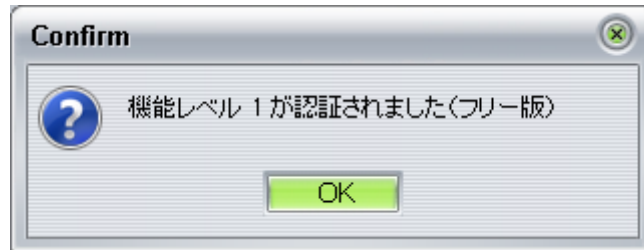


Figure 1.4.2.3 認証結果画面

[OK]ボタンで確認画面を閉じます。

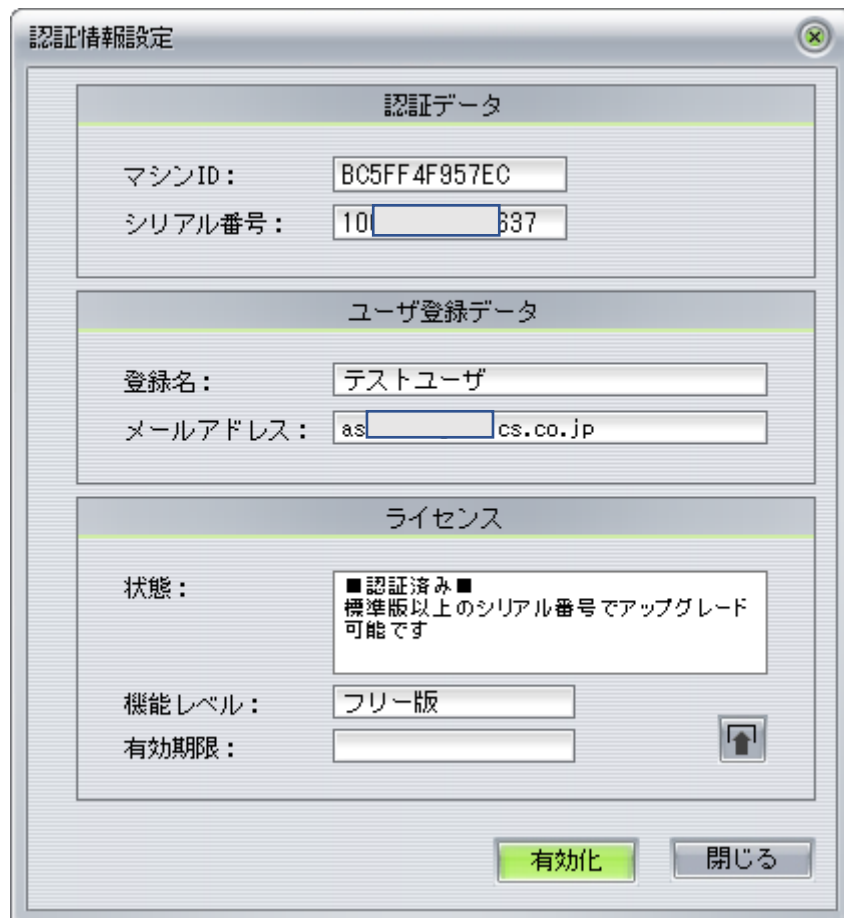


Figure 1.4.2.4 フリー版認証情報設定画面

この段階では、機能レベルがフリー版であり、アップグレード可能であることが表示されます。
フリー版の有効期限はありません。

1.4.3 認証手順その3 (ライセンスの更新)

シリアル番号が入手済みの場合、またはライセンスのアップグレードの場合も、同様に①シリアル番号欄に入手済みのシリアル番号を入力し、②[有効化]ボタンを押すことで新しいライセンスが適用されます。

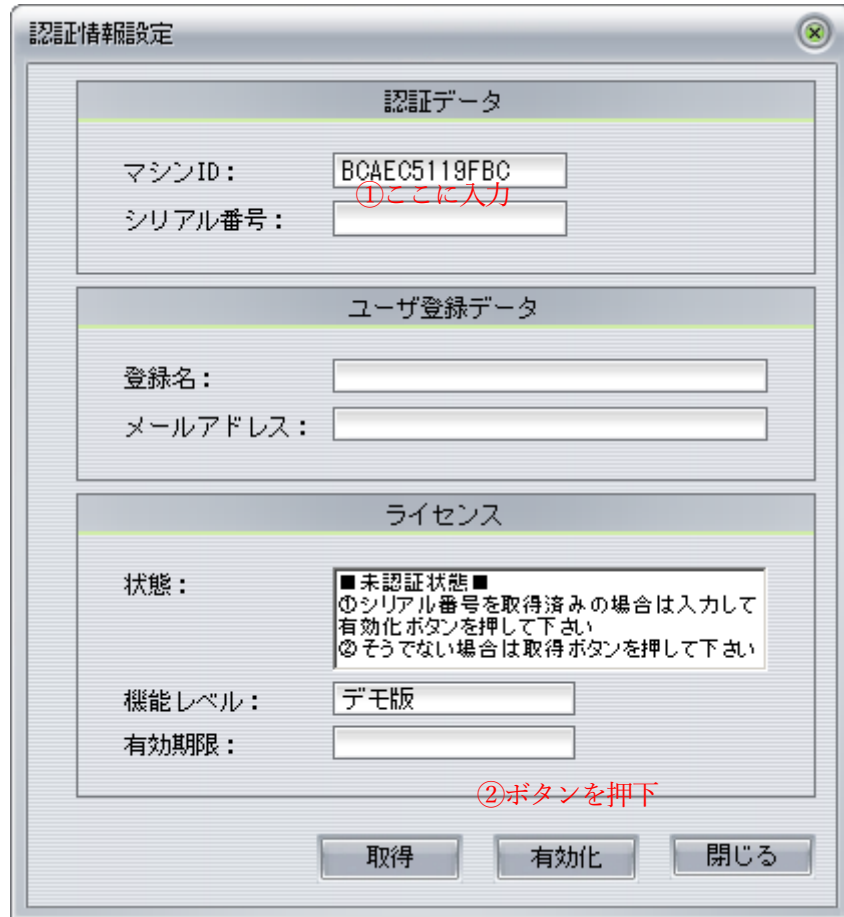


Figure 1.4.3.1 ライセンスの更新の手順

更新ボタンを押すと以下の確認画面が表示されます。

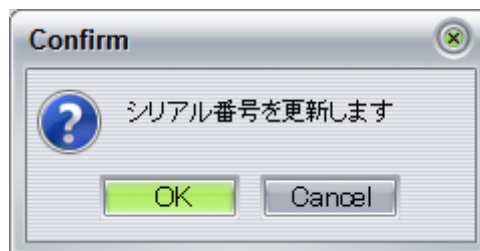


Figure 1.4.3.2 更新の確認画面

確認画面で[OK]ボタンを押すとライセンスが更新され、以下の認証結果画面が表示されます。

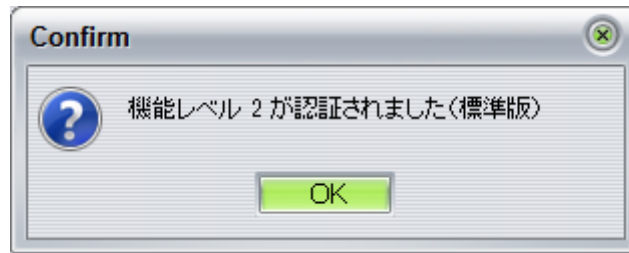


Figure 1.4.3.3 認証結果画面

[OK]ボタンで画面を閉じます。

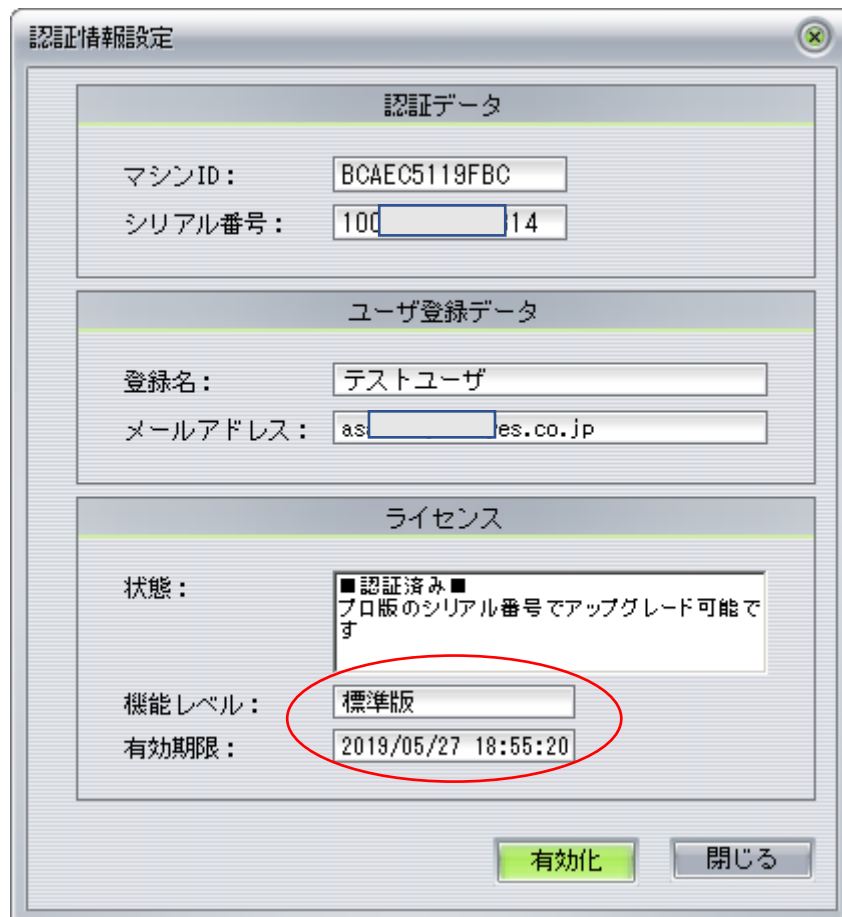


Figure 1.4.3.4 認証情報設定画面

更新されたライセンスが表示されます。

1.5 ライセンス購入

フリー版以上のライセンスの場合は、[ヘルプ]メニューから[ライセンス購入]を選択すると[ライセンス購入画面](#)が開きます。

以下の画面でライセンス購入の申し込みを行えます。価格に関しては製品ホームページを参照してください。

ライセンス購入

ライセンス購入の手順

- ①本フォームで購入申込を認証サーバに送信する
- ②本フォームに表示されているメールアドレス宛に支払い方法を記載した電子メールが送信される
- ③支払い方法に従ってお支払い
- ④シリアル番号が電子メールで送信される
- ⑤認証情報設定画面でシリアル番号を入力し、有効化する

ライセンス種別

標準版 プロ版

期間

180日 360日

支払い方法

クレジットカード 銀行振込

アカウント情報

登録名 テストユーザ

メールアドレス as[]@cs.co.jp

申込 閉じる

Figure 1.5 ライセンス購入画面

1.5.1 入力データ

- 1) ライセンス種別
「プログラムの機能が一部制限される標準版」または「機能無制限のプロ版」を選択します。
- 2) 期間
ライセンスは期間限定です。期間を180日または360日から選択します。
- 3) 支払い方法
支払い方法は「クレジットカード」または「銀行振込」です。別途「請求書」が電子メールで送付されますので、その記載内容に従ってお支払いをお願いします。

[申込]ボタンを押すと以下の確認画面が表示されます。

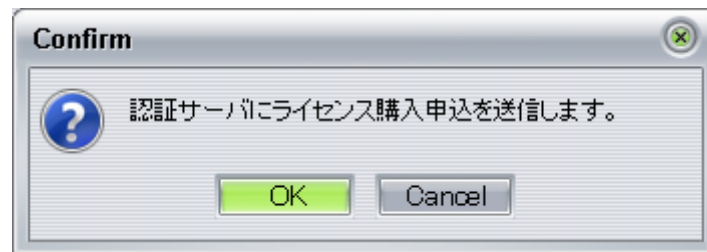


Figure 1.5.1 ライセンス購入申込確認画面

1.5.2 認証サーバへデータ送信

確認画面で[OK]ボタンを押すと認証サーバへ入力したデータを送信します。
データが受け付けられると以下の確認メッセージが表示されます。

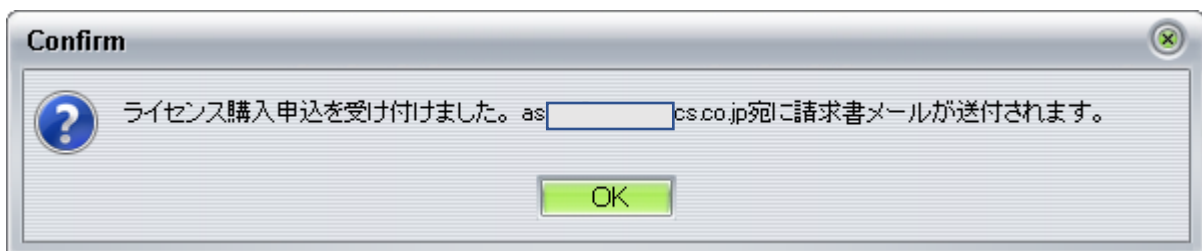


Figure 1.5.2 ライセンス購入受付完了確認メッセージ

ライセンス購入画面で表示されている電子メールアドレス宛に「請求書メール」が送信されます。「請求書メール」は原則として2営業日以内に送信されます。

「請求書メール」には、支払い方法で「クレジットカード」を選択した場合は支払いサイトのURLが、「銀行振込」を選択した場合には送金先の口座番号が記載されます。

いずれの方法でも、当社で入金確認され次第、電子メールアドレス宛にシリアル番号が記載された電子メールが送信されますので、1.4.3項の手順でライセンスの更新を行ってください。

1.6 プロモーション

フリー版から標準版またはプロ版へ無償でアップグレードできるプロモーション用のコードが発行されることがあります。

プロモーションを実行するには、認証情報設定画面で [プロモーション] ボタンを押下します。

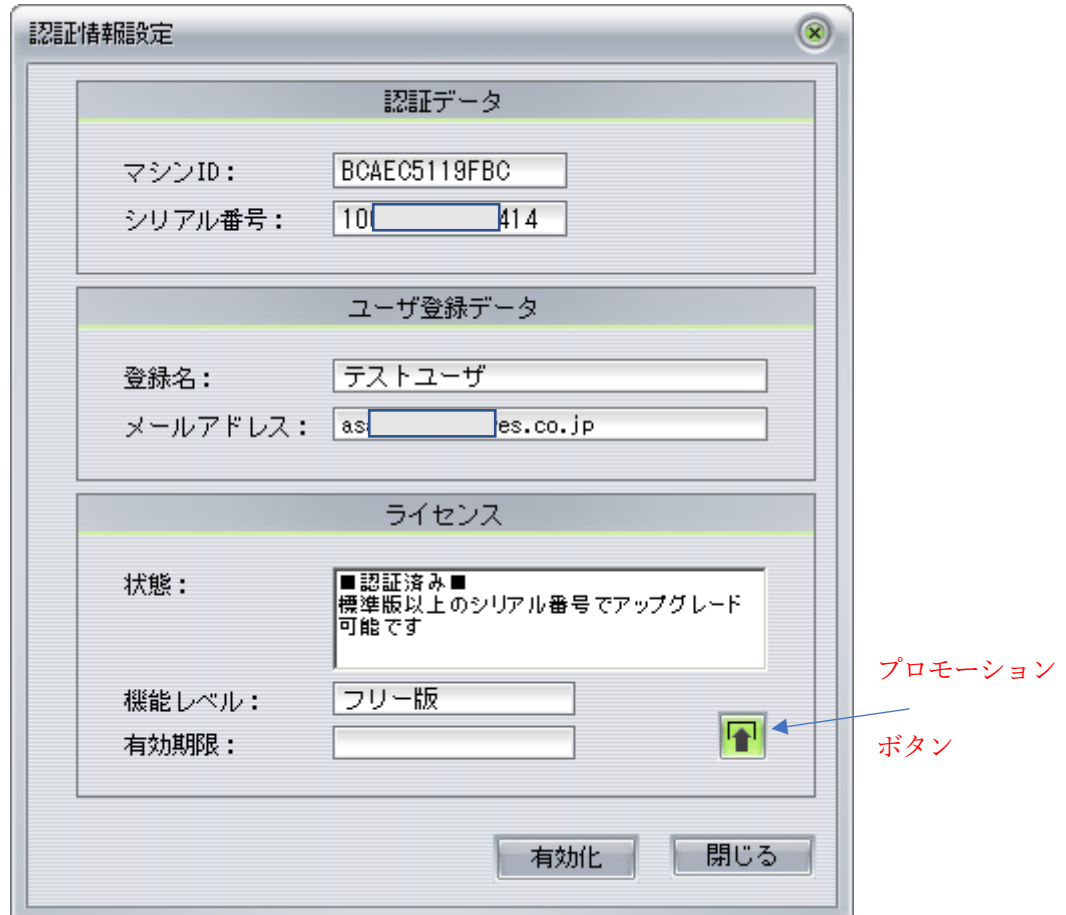


Figure 1.6.1 プロモーションボタン

以下のウィンドウでプロモーションコードを入力し、[OK]ボタンを押します。

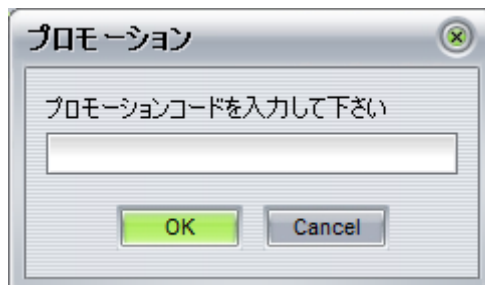


Figure 1.6.2 プロモーションコード入力

以下の確認画面が表示されます。

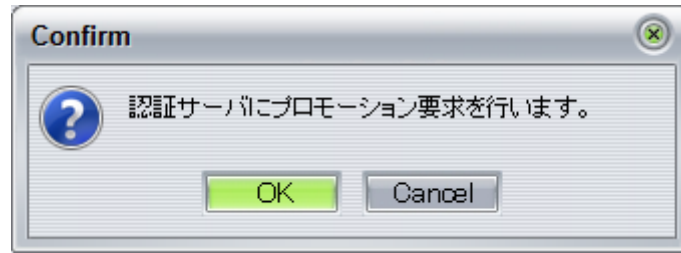


Figure 1.6.3 プロモーション要求確認画面

[OK]ボタンを押し、プロモーションに成功すると以下の画面が表示されます。

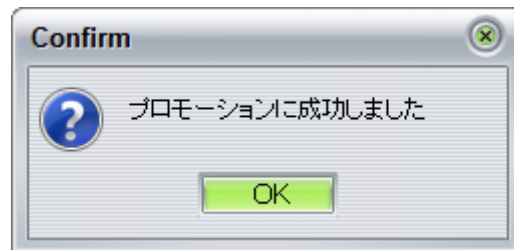


Figure 1.6.4 プロモーション成功

[OK]ボタンを押すと、機能レベル確認画面が表示されます。

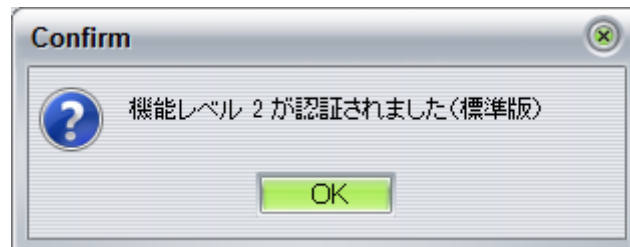


Figure 1.6.5 機能レベル確認画面

1.7 マニュアル

[ヘルプ]メニューから[マニュアル (オンライン)]または[マニュアル (ローカル)]を選択すると**マニュアル (PDF ファイル)** が内蔵ブラウザに表示されます。



Figure 1.7 ヘルプメニュー画面

ローカルのマニュアルは本製品の出荷時の時点での内容で、オンラインマニュアルは、本ドキュメントの最新版です。

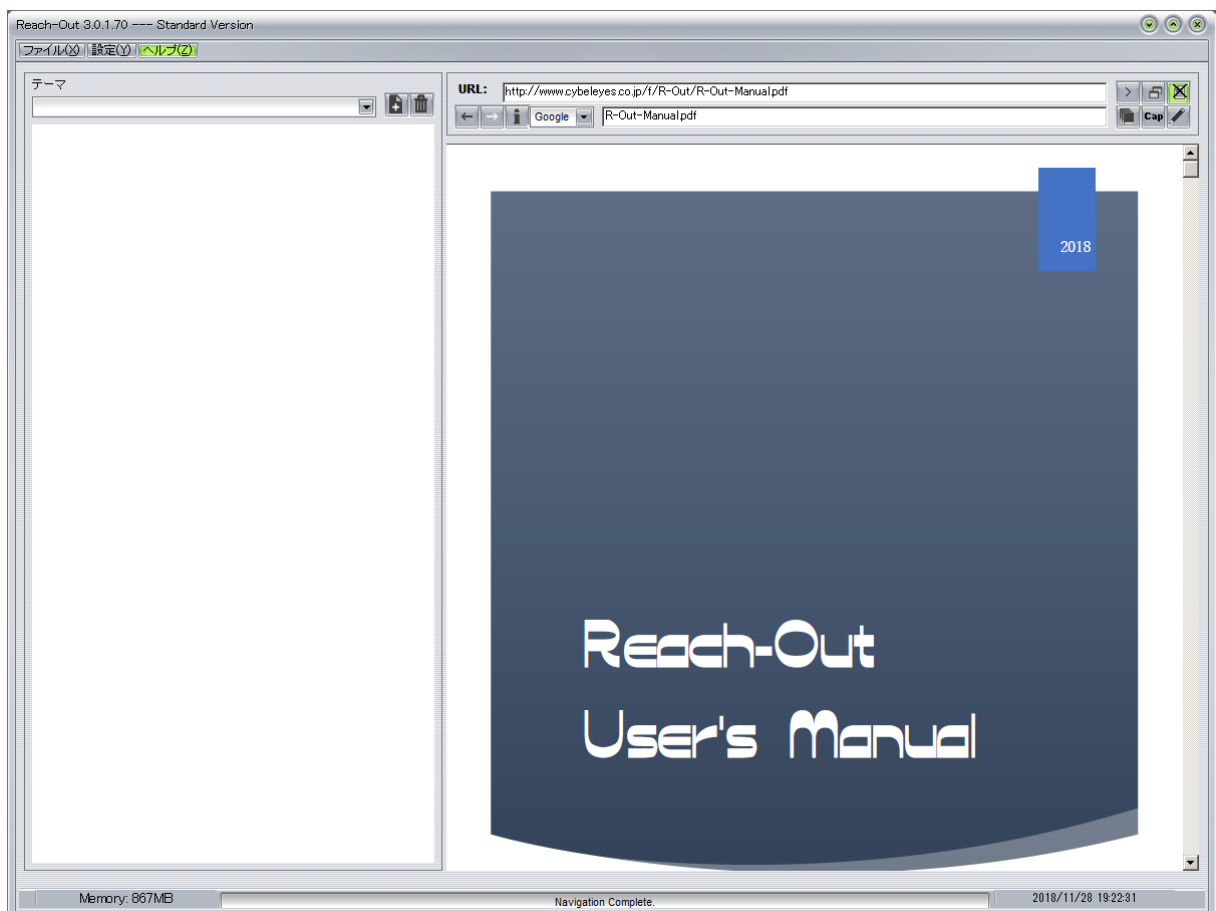


Figure 1.7.1 マニュアル画面

第2章 テーマの追加と削除

2.1 テーマの追加

作業の最初に行うことが「テーマの追加」です。
左側のテーマペインの上部にはプルダウンリストと[テーマ追加]ボタン及び[テーマ削除]ボタンが配置されています。

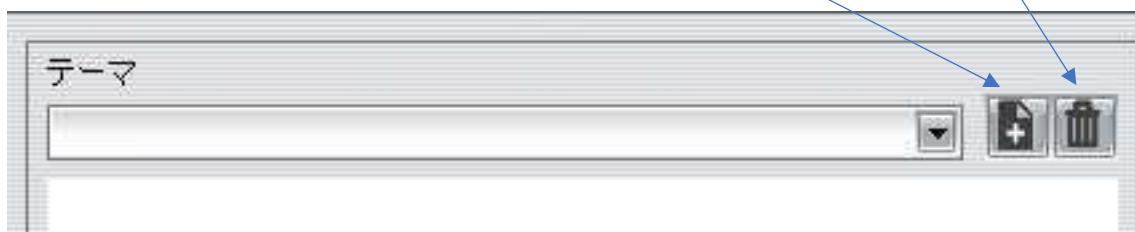


Figure 2.1.1 テーマペイン上部

[テーマ追加]ボタンを押すと以下のダイアログが表示されます。

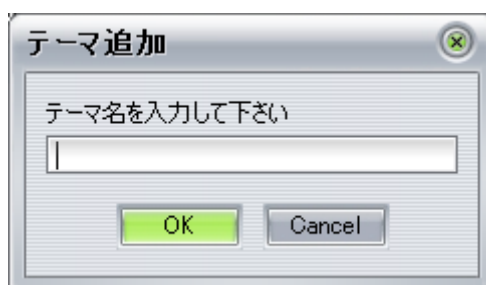


Figure 2.1.2 テーマ名入力画面

テーマ名は、テーマを識別する文字列で半角換算 127 文字まで登録できます。
テーマ名を入力して[OK]ボタンを押します。

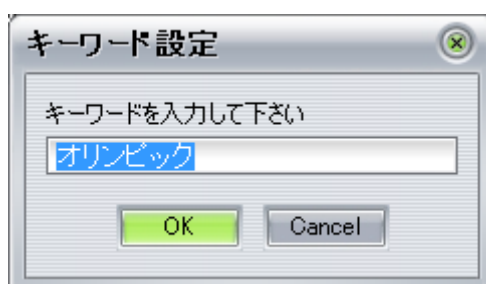


Figure 2.1.3 キーワード入力画面

キーワードを入力するダイアログが表示されます。
キーワードは検索に使用される文字列で半角換算 63 文字まで登録できます。
デフォルトとしてテーマ名が設定されます。
ここで入力したキーワードはそのまま検索エンジンへの入力文字列となります。
変更する場合はキーワードを入力して[OK]ボタンを押します。

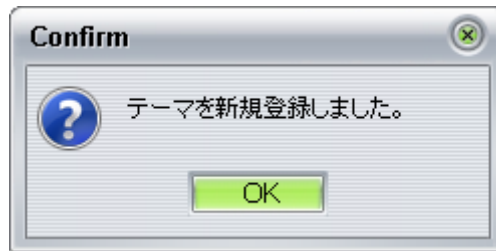


Figure 2.1.4 テーマ新規登録確認画面

[OK]ボタンを押すと新規登録されたテーマの初期画面が**内蔵ブラウザ**に表示されます。



Figure 2.1.5 内蔵ブラウザ表示画面

2.2 テーマの削除

選択中のテーマを削除することができます。
[テーマ削除]ボタンを押すと以下のダイアログが表示されます。

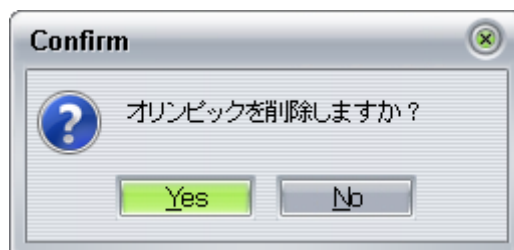


Figure 2.2.1 テーマ削除確認画面

削除すべきテーマ名を確認して[Yes]ボタンを押します。

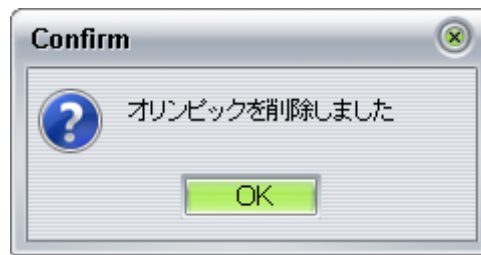


Figure 2.2.2 テーマ削除画面

デモ版ではテーマの削除は行えません。

第3章 テーマの表示

3.1 テーマの選択

左側のテーマペインの上部のプルダウンリストの[▼]ボタンを押すと登録されているテーマのリストが表示されます。



Figure 3.1 テーマ・プルダウンリスト

マウスで表示したいテーマを選択し、クリックするとそのテーマが表示されます。

3.2 テーマのツリー表示

テーマを選択すると、選択したテーマのキーワードがツリー領域の先頭に表示され、ブラウザにはそのキーワードで検索された結果が表示されます。

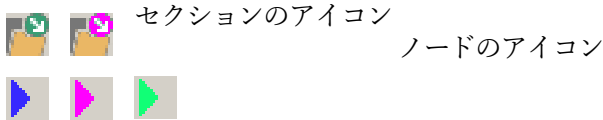
この先頭に表示されているキーワードは「**ルートセクション (ルート)**」と呼ばれ、全てのツリー構造の原点になります。



Figure 3.2 ツリー表示

3.3 ツリー構造

テーマは、ルートセクションを原点とするツリー構造で表示されます。
ツリー構造の要素には**セクション**と**ノード**があります。
ファイルシステムと比較すると、セクションはフォルダ、ノードはファイルに対応します。



3.3.1 ノードの登録

- 1) 内蔵ブラウザで表示中のページの情報をツリー上にノードとして登録することができます。
登録方法は、第4章4.2.5項を参照して下さい。
- 2) ノードのアイコンの横には、内蔵ブラウザが取得したページのタイトルが表示されます。
- 3) ツリー上のノードをクリックすると登録されたページが内蔵ブラウザに表示されます。
以下の画面はブラウザ・ペインの検索結果画面でリンクをクリックして移動し、ツリーにノードを追加した後の画面です。



Figure 3.3.1 ノードの登録

3.3.2 ツリー表示の原則

ツリー構造は以下の原則に従って表示されます。








- 1) ルートセクション以外の要素は他のセクションの下位に表示されます。
- 2) セクションにはアイコンの横にキーワードが表示されます。
- 3) セクションは自セクションの下位の要素のコンテナとして動作します。セクションが移動する場合はその下位の要素も同時に移動されます。
- 4) ツリー表示では最後に選択された要素（**カレント要素**）が赤色表示されます。
- 5) 様々なテーマペインでの機能は原則としてカレント要素に対して行われます。
- 6) ノードの追加は、カレント要素がセクションであればその下位の末尾に、ノードであればその所属するセクションの下位の末尾に対して行われます。
- 7) **ノードを左クリック**するとそのノードが選択され、その内容が**ブラウザ表示**されます。
- 8) **セクションを左クリック**するとそのセクションが選択されますが、ブラウザ表示は変わりません。
- 9) **セクションを左ダブルクリック**するとそのセクションが選択され、検索エンジンでその**キーワードを検索**した結果がブラウザ表示されます。
- 10) セクションのキーワード検索時には上位のセクションのキーワードも併記して検索されます。

3.3.3 ツリー構造での機能

テーマペイン内のツリー構造内でマウスの右クリックを行うと実行可能な機能がプルダウンメニューとして表示されます。



Figure 3.3.3 ツリーのプルダウンメニュー

- | | | |
|---|---------|--|
|  | 上へ移動 | カレント要素を1階層上へ移動します |
|  | セクション追加 | カレント要素がセクションの場合はその下位に、そうでない場合はカレント要素の属するセクションの下位に新たなセクションを追加します。 |
|  | 全展開 | ツリーを全展開します |
|  | 全折り畳み | ツリーを全て折り畳みます |
|  | キーワード変更 | カレント要素がセクションの場合、キーワードを変更します |
|  | 削除 | 選択されている要素を削除します (複数指定可)
セクションの場合は下位のノードも削除されます |
|  | 継承なし | 検索エンジンでの検索時に上位のセクションのキーワードを含めないようになります |

3.3.4 ツリーのドラッグ&ドロップ機能

ツリー構造内で要素をドラッグ&ドロップすることで位置を変更することができます。



Figure 3.3.4.1 ツリー要素のドラッグ&ドロップ

- 1) 移動する要素をクリックして選択します。
ブラウザが動いている場合は表示が確定するまで待ちます。

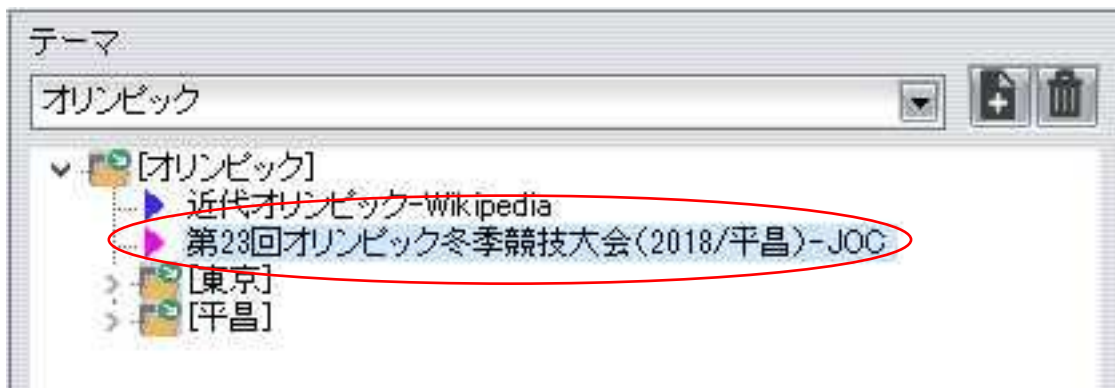


Figure 3.3.4.2 要素の選択

選択行が反転表示します。

- 2) ドラッグするとマウスポインタが四角い枠が付いた形に変化します。
- 3) ドロップ先までドラッグしてくるとドロップ先が反転表示します。



Figure 3.3.4.3 要素のドラッグ&ドロップ

- 4) マウスを放してドロップします。

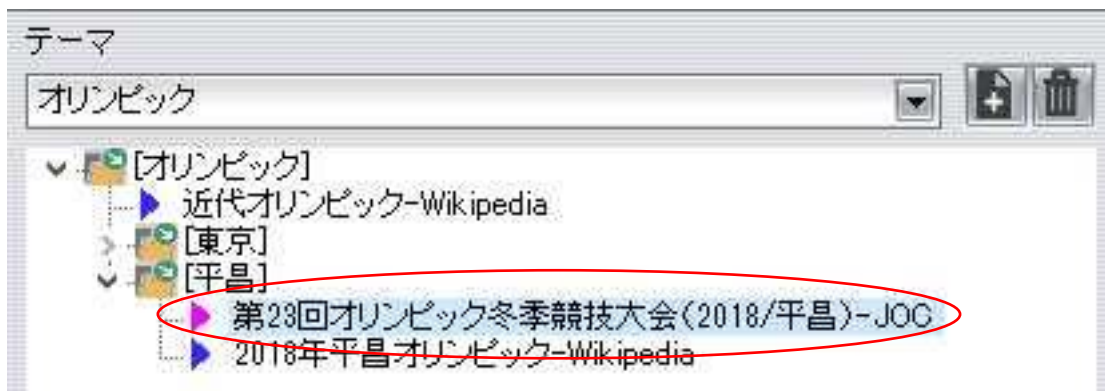


Figure 3.3.4.4 要素のドラッグ&ドロップ結果

3.3.5 ドラッグ&ドロップ機能の原則

- 1) ノードをドラッグし、ノードにドロップする場合
ドラッグしたノードは、ドロップ先のノードの次位に移動します。
- 2) ノードをドラッグし、セクションにドロップする場合
ドラッグしたノードは、ドロップ先のセクションの下位の先頭に移動します。
- 3) セクションをドラッグし、セクションにドロップする場合
以下のダイアログが表示されます。

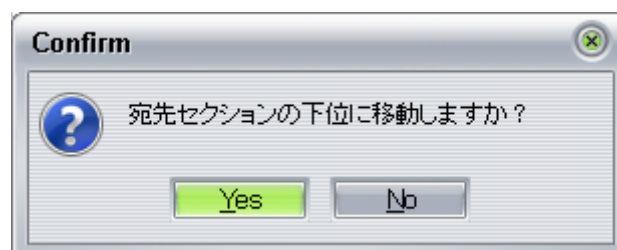


Figure 3.3.5 セクションのドラッグ&ドロップ

[Yes]をクリックするとドロップ先セクションの下位の先頭に移動します。

[No] をクリックするとドロップ先セクションの次位に移動します。

3.3.6 セクションの機能

セクションは、ノードのコンテナであるだけでなく、検索エンジンを使用したキーワード検索を行う機能があります。

- 1) セクション追加時
セクションのキーワードを上位セクションのキーワードと共に検索エンジンで検索します。
- 2) クリック時
セクションが選択されるのみでブラウザ画面は変化しません。
ノードの追加は、選択されているセクションまたは選択されているノードの所属セクションに対して行われます。
セクションを選択することで任意のセクションに対して表示中のページをノード登録することができます。
- 3) ダブルクリック時
セクション追加時と同様に、検索エンジンで検索します。
このとき、検索エンジンにツイッターが選択されている場合は自動的に「スクリプト許可」の状態になります。それ以外の場合は「スクリプト禁止」の状態になります。
スクリプト制御については第4章 4.2.8 項を参照してください。



Figure 3.3.6 セクションのダブルクリック

3.4 カテゴリー機能 (PRO 版機能)

テーマ数が多くなってくるとプルダウンリストから選択することが非効率になってきます。プロ版では、テーマをカテゴリーに分類し、(カテゴリー選択) → (テーマ選択) という2階層の選択方式で目的のテーマを素早く選択できるようになります。本機能は、機能レベル3 (プロ版) で利用できます。

3.4.1 分類設定

[設定]メニューから[分類設定]を選択すると以下の「カテゴリー編集」画面が開きます。



Figure 3.4.1.1 分類設定メニュー

初期化時にはカテゴリー名称は空欄となっており、16種類のカテゴリー名称を登録できます。

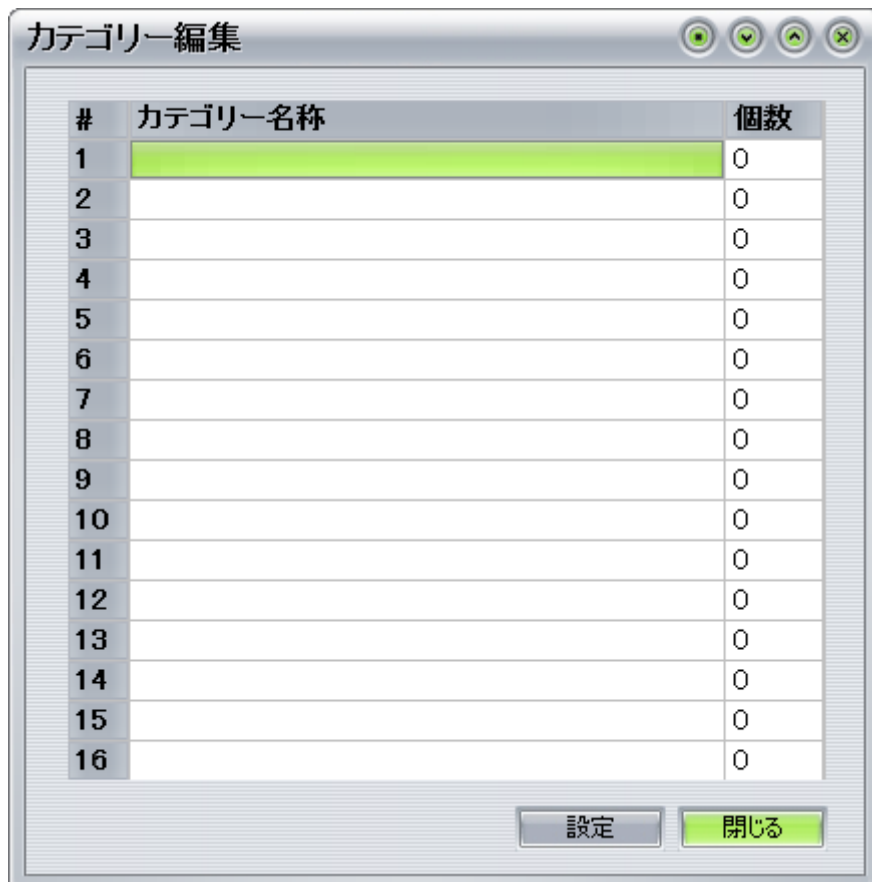


Figure 3.4.1.2 カテゴリー編集画面

3.4.2 カテゴリー名称の編集

[カテゴリー編集]画面では、[カテゴリー名称]コラムを直接編集することができます。

編集したいカテゴリ名称を任意の文字列で書き換えます。

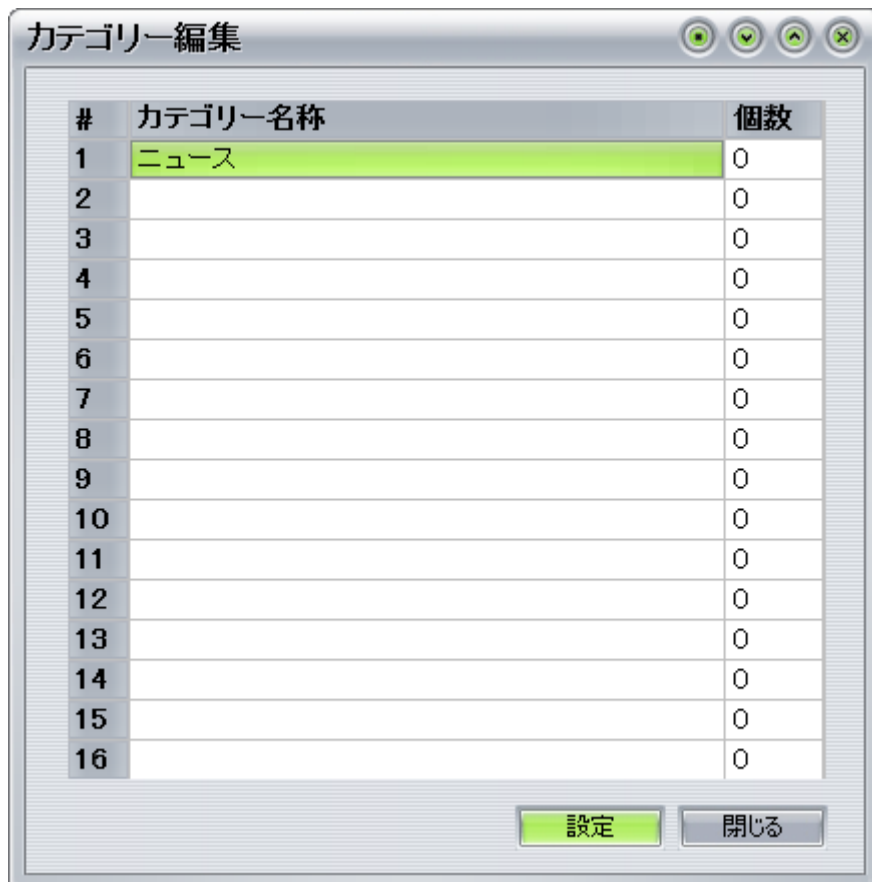


Figure 3.4.2.1 カテゴリの編集方法

[設定]ボタンを押すと書き換えた内容が保存され、以下の確認メッセージが表示されます。

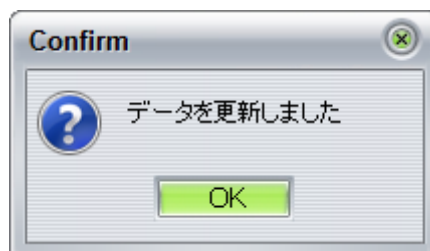


Figure 3.4.2.2 カテゴリのデータ更新

分類プルダウンリストに内容が反映されます。

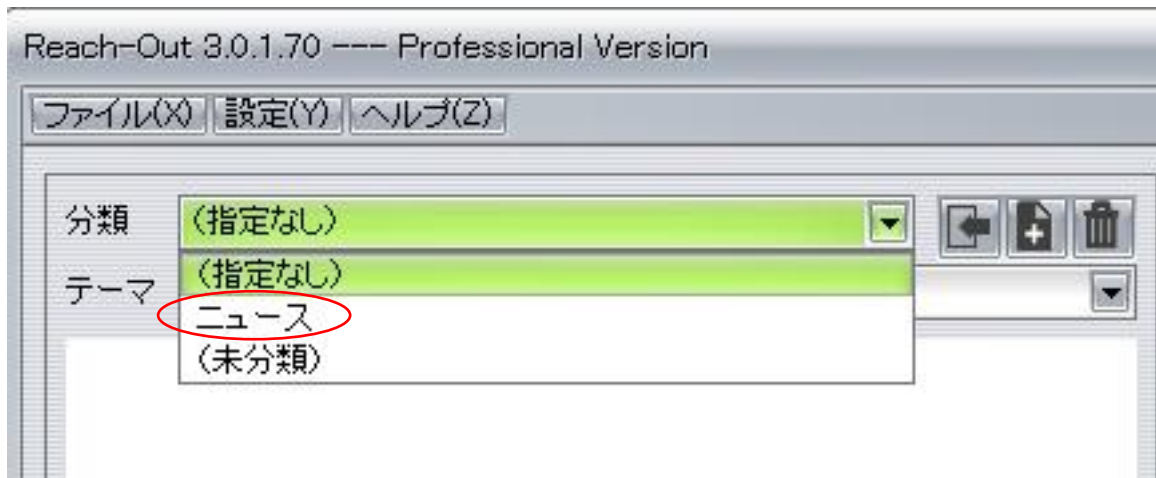


Figure 3.4.2.3 カテゴリーリスト

3.4.3 カテゴリーの選択

分類プルダウンリストには、登録されているカテゴリー名称が表示されます。
分類プルダウンリストの選択に従って、テーマプルダウンリストに表示されるテーマが決定されます。
「(指定なし)」を選択すると全てのテーマが、特定のカテゴリー名称を選択するとそのカテゴリーに所属するテーマがリストアップされます。



Figure 3.4.3 カテゴリーに属するテーマリスト

3.4.4 テーマの分類方法

[テーマ追加]ボタンでテーマを追加する場合は、その時点で分類プルダウンリストに表示されているカテゴリに分類されます。



Figure 3.4.4.1 カテゴリへのテーマ追加

現在所属しているカテゴリを変更する場合は、分類プルダウンリストから他のカテゴリを選択し、[分類設定]ボタンを押下します。



Figure 3.4.4.2 カテゴリの変更

確認メッセージが表示されるので[OK]ボタンを押します。

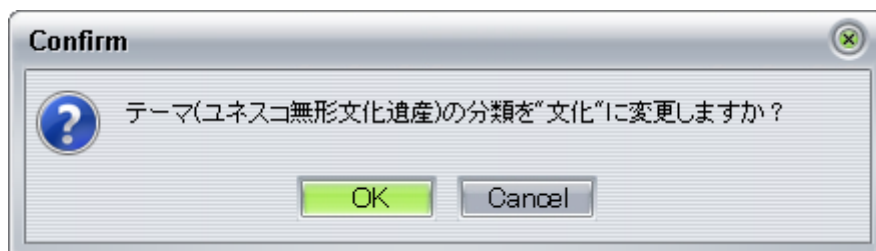


Figure 3.4.4.3 カテゴリ変更確認メッセージ

分類の変更が完了すると以下のメッセージが表示されます。

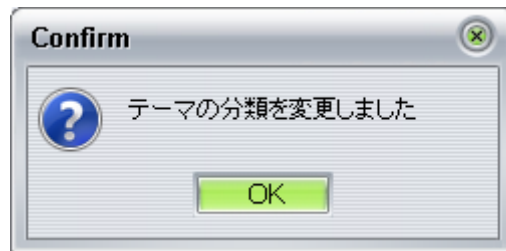


Figure 3.4.4.4 カテゴリー変更完了メッセージ

第4章 ブラウザ・ナビゲーション

4.1 ブラウザ制御

本プログラムの内蔵ブラウザは、Microsoft の Shell Doc Object and Control Library (SHDOCVW.DLL) の Web ブラウザ機能を利用しています。

従って、**ブラウザ・ペイン**内の機能と動作は、Internet Explorer 11 と同様です。一部のサイトでは IE11 で正しく表示されない内容を含む場合があります。この場合の挙動も IE11 と同様になります。

ブラウザの設定は、Windows に付属の Internet Explorer での設定が使用されます。

4.2 ナビゲーション・ペイン

ブラウザ画面の上にある**ナビゲーション・ペイン**の各種コントロールを使用して、ネット・ナビゲーションを行います。

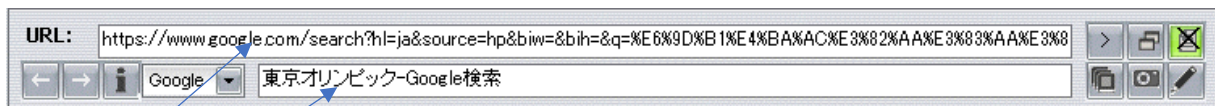











Figure 4.2 ナビゲーション・ペイン (ナビコントロール)

- | | | |
|---|--------|--|
| ① | アドレスバー | 内蔵ブラウザが表示中のページのアドレスが表示されます |
| ② | タイトルバー | 内蔵ブラウザが表示中のページのタイトルが表示されます |
| ③ | ボタン類 | <ul style="list-style-type: none">  ブラウザ・前画面へ戻る (黒字の時有効)  ブラウザ・次画面へ進む (黒字の時有効)  検索エンジン起動 (プルダウンリストから検索エンジンを変更できる)  ナビゲート (アドレスバーに表示中の URL へ移動)  DB 登録 (現在のページをツリーにノード登録)  コピーアドレス (アドレスバーの文字列をクリップボードにコピー)  キャプチャ画像表示  スクリプト制御 (スクリプト実行の許可と禁止)  エディタ起動 |

4.2.1 ブラウザ・前画面へ戻る

可能な場合は**イネーブル表示** (ボタンの図形が黒色表示) され、押下するとブラウザが前画面を表示します。

4.2.2 ブラウザ・次画面へ進む

可能な場合はイネーブル表示され、押下するとブラウザが次画面を表示します。

4.2.3 検索エンジン起動

ナビゲーションで使用する検索エンジンのページへ移動します。
使用する検索エンジンはプルダウンメニューでグーグル、ヤフー、ツイッターから選択できます。
初期設定ではグーグルを使用します。

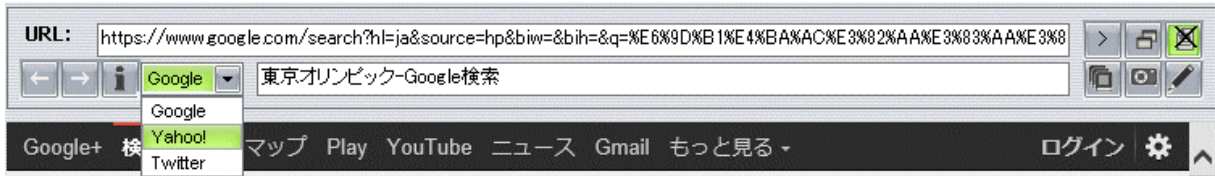


Figure 4.2.3 検索エンジンの選択

4.2.4 ナビゲート

アドレスバーに表示中の URL へ移動します。アドレスバーは編集可能です。

4.2.5 DB 登録

ブラウザで表示中のページの内容 (タイトルと URL) をデータベース登録し、ツリーにノードとして表示します。ツリー表示の原則は第3章 3.3.2 項を参照して下さい。

ブラウザに表示中の画面を画像としてデータベースに自動的に保存します。ただし、画面の種類によっては保存できない場合があります

4.2.6 コピーアドレス

ナビゲーション・ペインの上部には表示しているページの URL を表示する欄があります。
[コピーアドレス]ボタンを押下するとアドレス欄の内容をクリップボードにコピーします。

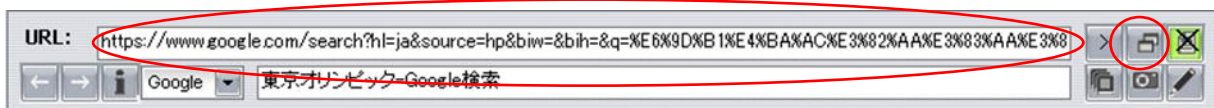


Figure 4.2.6 ナビゲーション・ペイン(アドレス)

4.2.7 キャプチャ画像表示

URL のページが存在しなくなっていることがあります。また、DB 登録時の内容と異なっている場合もあります。そのようなときには[キャプチャ画像表示]ボタンを押下すると DB 登録時に自動的に保存されているキャプチャ画像をブラウザ表示することができます。

キャプチャ画像の表示中は、アドレスバーにテンポラリーファイルのアドレスが表示され、キャプチャボタンが緑色表示になります。

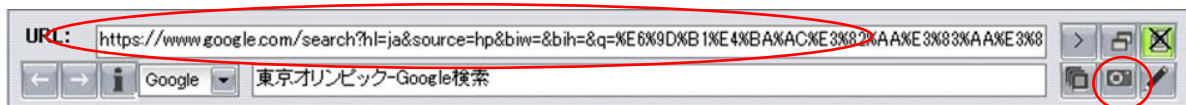


Figure 4.2.7 ナビゲーション・ペイン(タイトル)

4.2.8 スクリプト制御

スクリプト実行を許可するかどうかを選択することができます。

一部のサイトでは本ソフトウェアの内蔵ブラウザ (Internet Explorer 11 相当) で実行できない、またはエラーが起きるスクリプトを含んでいることがあります。その場合、内蔵ブラウザに悪影響を与えて、スローダウンやクラッシュを引き起こすことがあります。

そういった事態を防ぐため、ブラウザは原則「スクリプト実行禁止」でページ表示します。しかしながら、Twitter のようにスクリプトが実行できないと機能が大幅に制限されるサイトがあるため、スクリプト制御ボタンでスクリプト実行の禁止と許可を設定することができます。

Twitter での検索の場合は自動的にスクリプト実行許可状態になります。

ボタンを押し込んだ状態が「禁止状態」で緑色表示されます。そうでない状態が「許可状態」です。ボタンのアイコンが下図のように変化します。



Figure 4.2.8 スクリプト許可 (左) と禁止 (右)

4.2.9 エディタ起動

エディタ起動ボタンで**内蔵テキストエディタ**を**起動**できます。エディタは別ウィンドウで開きます。(モードレス)

エディタの詳細は、第5章を参照してください。

4.2.10 ローカルファイルのドラッグ&ドロップ

内蔵ブラウザの枠内に PC のローカルファイルをエクスプローラ画面から**ドラッグ&ドロップ**することができます。

このとき、以下の種類のファイルは内蔵ブラウザに表示され、アドレスバーにファイルのフルパスが表示されます。

このようにして内蔵ブラウザに表示されたファイルは[DB 登録]ボタンを押下するとツリーにノードとして登録することができます。

【内蔵ブラウザに表示されるファイル】

- ・テキストファイル (拡張子 TXT など)
- ・画像ファイル (拡張子 JPG、GIF など)
- ・アドビドキュメントファイル (拡張子 PDF)
- ・ブラウザ関係ファイル (拡張子 HTML、PHP など)

(注) アドビドキュメントファイル、ブラウザ関係ファイルは PC の環境によって表示できない場合があります。

4.2.11 ズーム機能

内蔵ブラウザの画面のズームを行うスライダーが内蔵ブラウザの右下に配置されています。

スライダーを右に動かすと最大 200%まで拡大表示され、左に動かすと縮小表示されます。

ブラウザ画面が遷移すると倍率は 100%に初期化され、スライダーは中央に戻ります。



Figure 4.2.11 ズーム用スライダー

4.3 インターネットオプション

内蔵ブラウザは Internet Explorer 11 と共通のライブラリを使用しているため、インターネットオプション設定も共通になります。

4.3.1 インターネットオプションの起動方法

[設定]メニューから[インターネットオプション]を選択するとインターネットオプション画面が開きます。この画面は本プログラムとは独立したアプリケーションとして開きます。

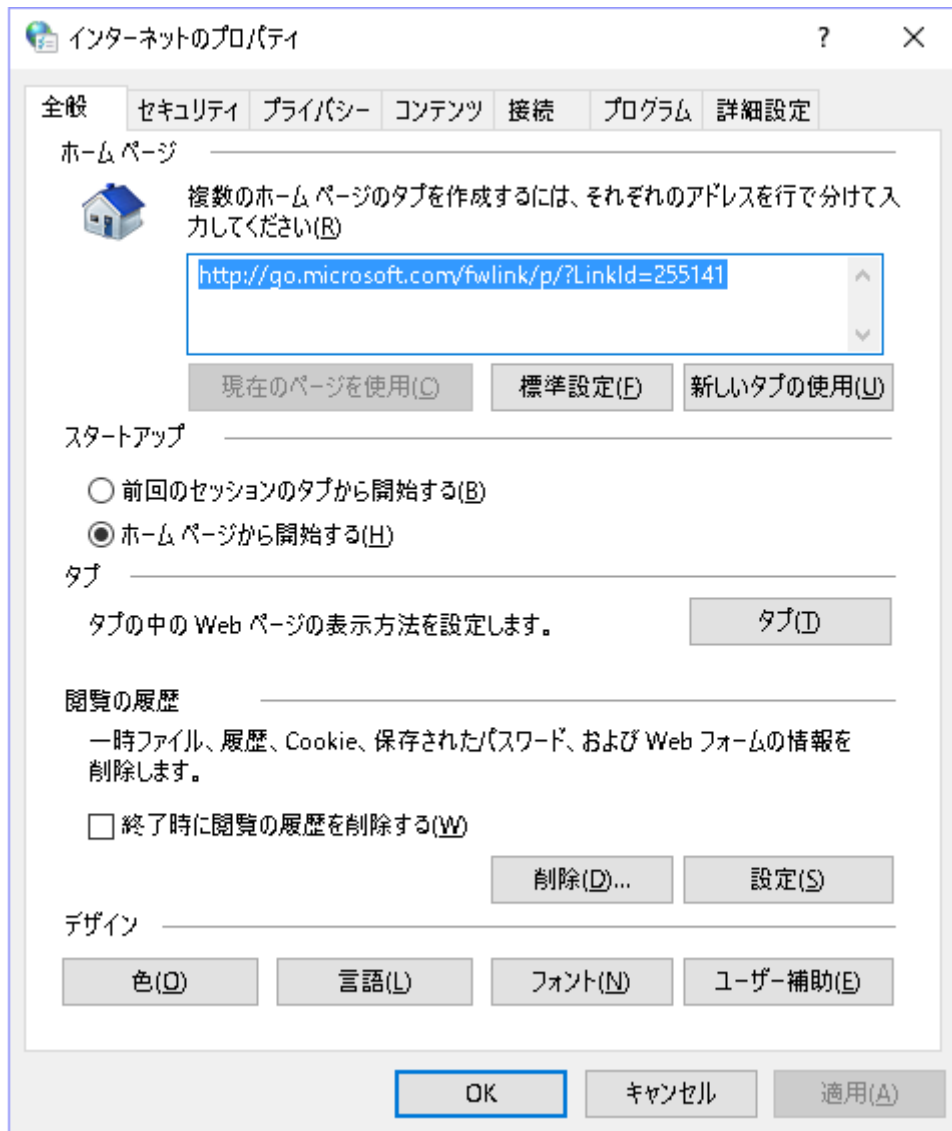


Figure 4.3.1 インターネットオプション画面

本画面で設定されるデータは Internet Explorer 11 の設定に反映され、逆も同様です。

4.3.2 自動更新処理のための設定

自動更新処理を円滑に行うためにはブラウザ巡回中のダイアログ表示を避けることが重要です。インターネットオプション画面から[セキュリティ]タブを開き、インターネットゾーンを指定して[レベルのカスタマイズ]ボタンを押下するとセキュリティ設定画面が開きます。

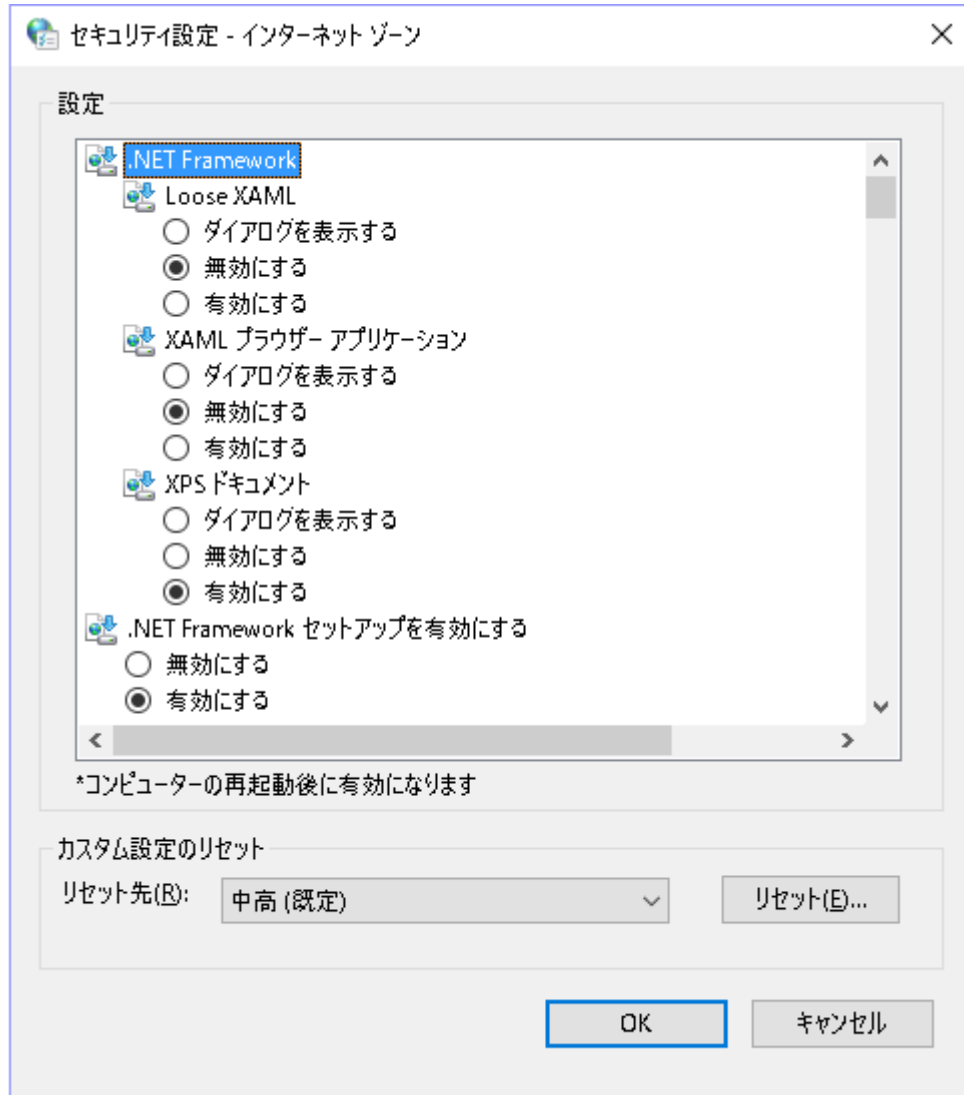


Figure 4.3.2 セキュリティ設定画面

各項目で「ダイアログを表示する」オプションを外すと自動処理が円滑化されますが、巡回先のサイトのセキュリティ状態を確認の上、設定するようにしてください。
また、ここでの変更は Internet Explorer にも反映されることに注意してください。

第5章 テキストエディタ

5.1 内蔵テキストエディタ概要

本プログラムの内蔵エディタは、Windows のメモ帳と同じくテキスト専用のエディタです。コピー&ペースト編集機能を強化した「カットバッファ」+「テキストエディタ」の2ペイン構成です。

カットバッファでは、ブラウザ表示中のページテキストを読み込んで、選択と編集を行います。テキストエディタでは、オリジナルのテキストを作成して、ファイルに保存できます。

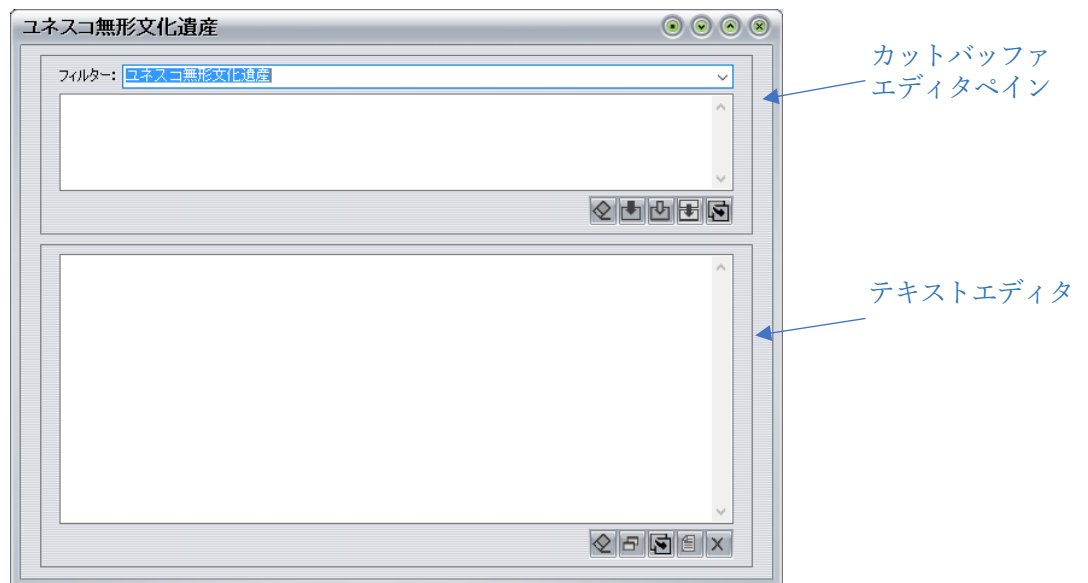


Figure 5.1 テキストエディタ画面

5.2 カットバッファ

カットバッファ・ペインには、フィルター・プルダウンリスト、テキスト編集パネル及び機能ボタンが配置されています。

5.2.1 フィルター・プルダウンリスト

上部のフィルター・プルダウンリストはカットバッファに表示するテキストを絞り込むために使用します。指定したキーワードが含まれる行を表示します。

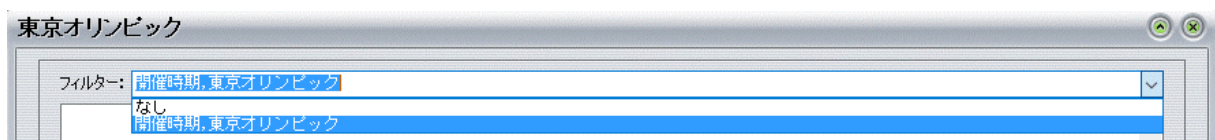


Figure 5.2.1 フィルター・プルダウンリスト

エディタが起動されたとき、表示中のノードの所属するセクションと上位のセクションのキーワードが全てカンマで区切られて、プルダウンリストに自動的に登録されます。(and 条件)

フィルターは編集することができます。表示中の文字列を変更すると新たな文字列がリストに追加されます

フィルターの内容は、[フィルタテキスト]ボタンで表示中の Web ページをカットバッファに読み込むときに使用されます。

5.2.2 カットバッファの機能ボタン

ペインの下部の機能ボタンで様々な機能が実現できます。



Figure 5.2.2 カットバッファ機能ボタン

- ①クリアボタン
カットバッファの内容を全クリアします。
- ②概要ボタン
表示中の Web ページの概要 (html のメタテキスト) をテキスト編集パネルにコピーします。
- ③フィルタテキストボタン
フィルタープルダウンリストの文字列が含まれる Web ページの内容 (html のテキスト部分) をテキスト編集パネルにコピーします。
- ④選択コピーボタン
カットバッファのテキスト編集パネル内で選択されている文字列をシステムのクリップボードにコピーして、エディタの編集パネルに自動的に貼り付けます。
- ⑤ペーストボタン
クリップボードの内容をカットバッファに貼り付けます。

5.2.3 テキスト編集パネルの表示と選択

カットバッファのテキスト編集パネルには Web ページの内容が**デリミタ**で区切られて表示されます。

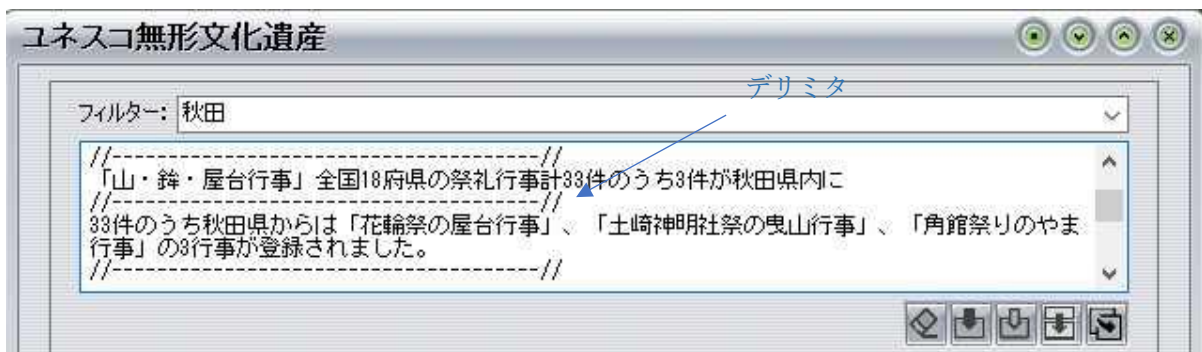


Figure 5.2.3.1 テキスト編集パネル

この例では、フィルタテキストボタンの機能を使って、フィルター内容 (“秋田”) を含んだテキストを抽出して、パラグラフ単位にデリミタで区切って表示しています。

このパラグラフは Web ページの内容 (html のタグ) に依存します。

テキスト編集パネル上のテキストをダブルクリックするとその場所を含んだパラグラフ (デリミタとデリミタで挟まれた部分) を自動的に選択状態にします。(反転表示)

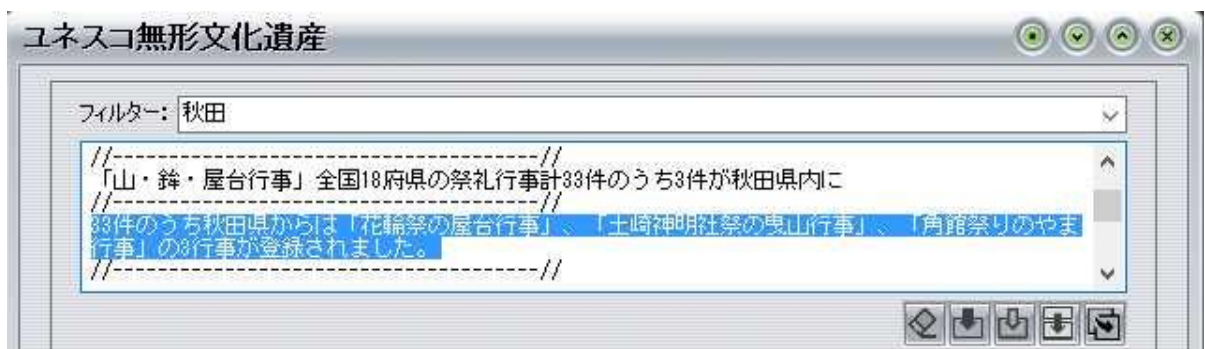


Figure 5.2.3.2 テキスト編集パネル (反転表示中)

また、通常の Windows 機能キーを使って任意の部分を選択することもできます。

範囲を選択したら、[選択コピー]機能を使用して、エディタの編集パネルに貼りつけます。このときシステムのクリップボードを使用しますので、他のアプリケーションに Windows 機能キーを使って貼り付けることもできます。

5.3 テキストエディタ

テキストエディタは、テキスト編集パネルと機能ボタンから構成されます。テキスト編集パネルでは、Windows のメモ帳と同様にキーボードから文字を入力します。マウスの左クリックはカーソル移動、右クリックは Windows の UI 機能が割り当てられます。それ以外に下部に配置された機能ボタンで以下の機能が実行できます。



Figure 5.3.1 テキストエディタ機能ボタン

機能ボタンの機能は以下の通りです。

- ①クリア
テキストエディタの全文字をクリアします。
- ②コピー
選択部分をクリップボードにコピーします。
- ③ペースト
クリップボードの内容をカーソル位置に挿入します。
- ④ファイルに保存
エディタの内容をファイルとして保存します。
保存時のエンコードは「シフト J I S」になります。

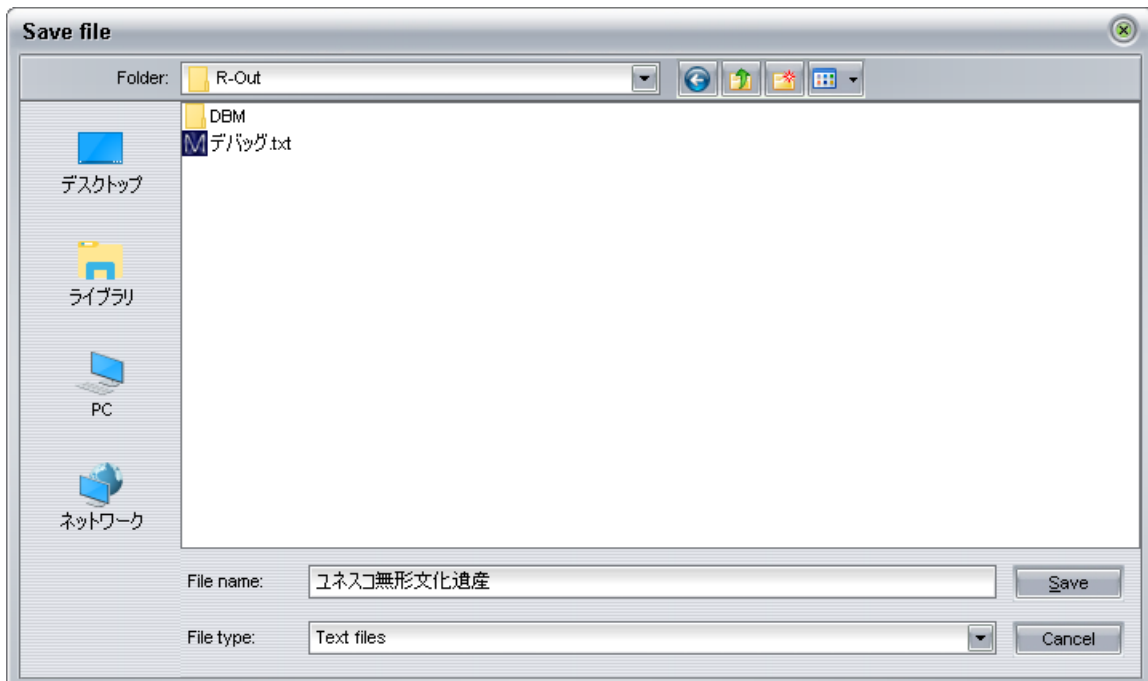


Figure 5.3.2 ファイルに保存画面

ファイル名を指定すると拡張子は自動的に txt が付加されます。
ここで保存したファイルはテーマページのツリーに自動的に登録されます。

同名のファイルがあると以下のメッセージが表示され、[OK]ボタンを押すと上書きします。

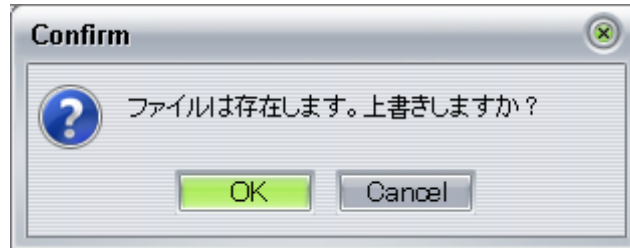


Figure 5.3.3 上書き確認画面

ツリーに登録されたテキストファイルは内蔵ブラウザに他のページと同様に表示されます。



Figure 5.3.4 テキストファイルのツリー登録とブラウザ表示

⑤閉じる

エディタを非表示にします。プログラムを終了するまで内容は保持されますので、再度エディタを起動すると編集されていたテキストが表示されます。

第6章 高度な機能

6.1 ツリー自動生成

キーワードのみを指定することで、自動的に検索エンジンでの検索結果をノードとして取り込みキーワードの直下に配置し、ツリーを生成することができます。

使用する検索エンジンは「4.2.3 検索エンジン起動」で指定できます。ただし、Twitterは指定できません。

6.1.1 ツリー自動生成の起動方法

テーマを登録し、調査対象のキーワードをセクションとして追加します。自動生成はツリー内の**指定したセクションの下位構造**に対して行われます。以下の例ではルートが対象になっています。

ペイン内のツリー領域で右クリックするとプルダウンメニューが表示されるので[ツリー自動生成]を選択します。

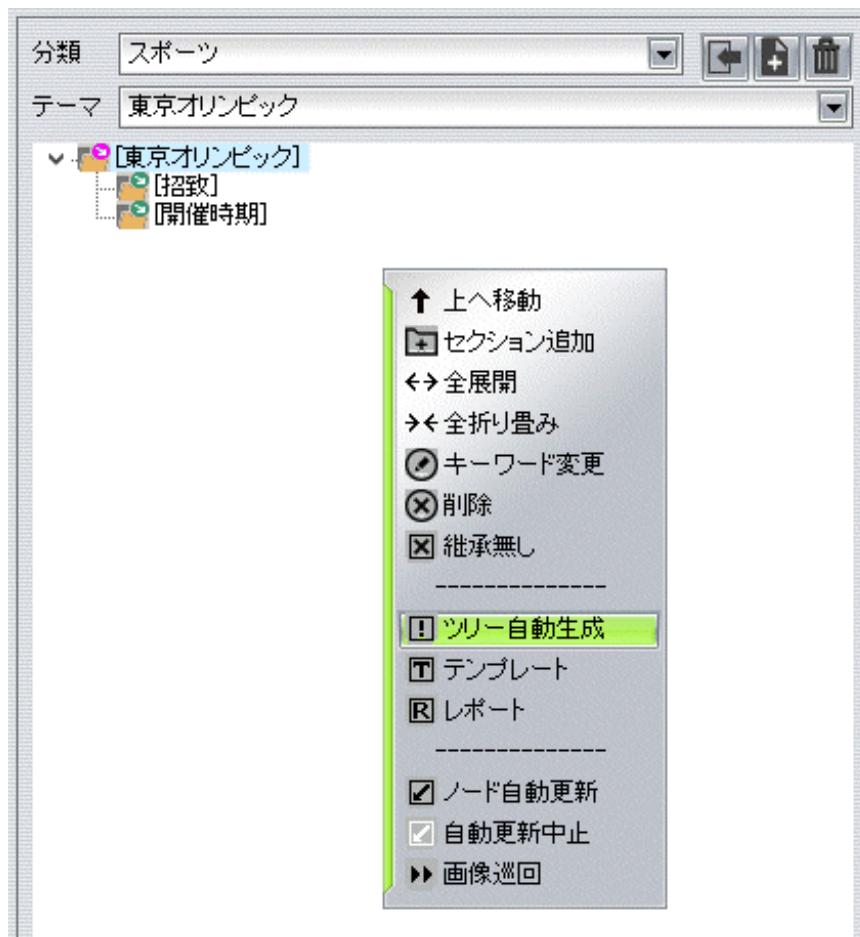


Figure 6.1.1 プルダウンメニュー（ツリー自動生成）

6.1.2 自動生成条件の設定 (PRO 版機能)

プロ版の場合は、自動生成に関するパラメータを細かく設定することができます。

1) サイト登録

自動生成では、セクションの継承されたキーワードに対して検索エンジンで検索を行い、検索結果の順番にサイトをノードとして登録します。

このときこの処理を行う個数を指定できます。最小値は10です。必ずしもすべての処理結果が取り込まれるわけではありませんので、生成されるノード数はそれ以下の個数になります。

2) 画面キャプチャ

サイト登録が完了すると、サイトのキャプチャ画像をデータベース化する機能が実行されます。ただし、ラジオボタンで[スキップ]を選択すると処理を行わず、終了します。

[高精度モード]ではスクリプトを有効化して画面キャプチャを行います。スクリプト必須のサイトの画面キャプチャも正常に実行されますが実行時間は長くなります。スクリプトを可能にするとブラウザの読み込み完了信号の後にもスクリプトが画像読み込みを続行します。そのため、一定のタイミングで画面キャプチャを行う必要があります。[スクリプト時待機秒数]で設定した時間が経過後にキャプチャが行われます。

高速モードではスクリプトを無効化して画面キャプチャを行います。スクリプト必須のサイトの画面キャプチャは行えなくなりますが実行時間は短くなります。

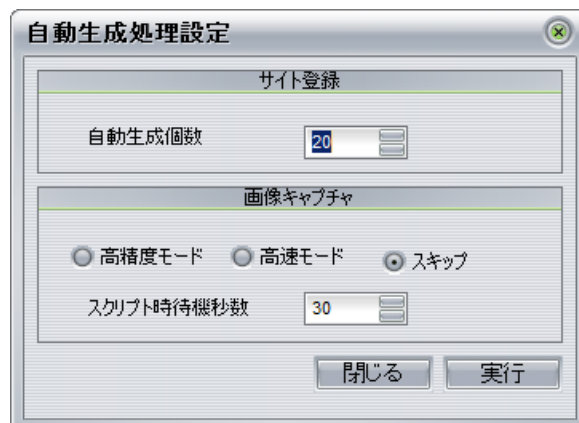


Figure 6.1.2 検索数の設定

ダイアログで[実行]ボタンを押下すると処理が開始されます。

6.1.3 ツリー自動生成の実行

ツリー自動生成が開始されると前面にプログレス画面が表示され、実行した検索個数がバーで表示されます。



Figure 6.1.3 自動生成の実行

6.1.4 自動更新処理の起動

ツリー自動生成処理が完了すると自動的にノード自動更新処理が開始されます。(前項で[スキップ]が選択されていた場合を除く) 自動更新処理はツリーに登録されたノードの URL をブラウザ表示して、キャプチャ画像を取り込む処理です。



Figure 6.1.4.1 自動更新処理の起動

画面キャプチャで取り込まれた画像情報はデータベースに格納されます。この画像情報を利用して、URL リンクが切れた場合でも取り込み時の画面を表示することができます。

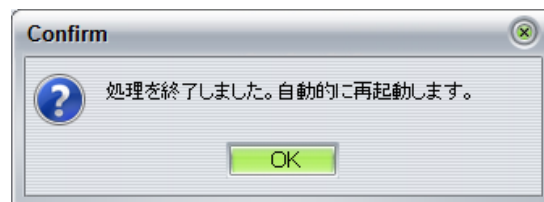


Figure 6.1.4.2 自動更新処理の完了

6.2 ノード自動更新

既存のツリーのノードを自動更新することができます。自動更新とはそのノードに格納されている URL をブラウザ表示し、そのキャプチャ画像をデータベース登録するものです。既存の画像情報は自動的に上書きされます。

自動更新されるアイテムはノードのみで、セクションが含まれる場合はセクションに所属するノードに対しての処理となります。

6.2.1 ノード自動更新の起動方法

自動更新対象のセクションを指定します。以下の例ではルートが対象になっています。

ペイン内のツリー領域で右クリックするとプルダウンメニューが表示されるので[ノード自動更新]を選択します。

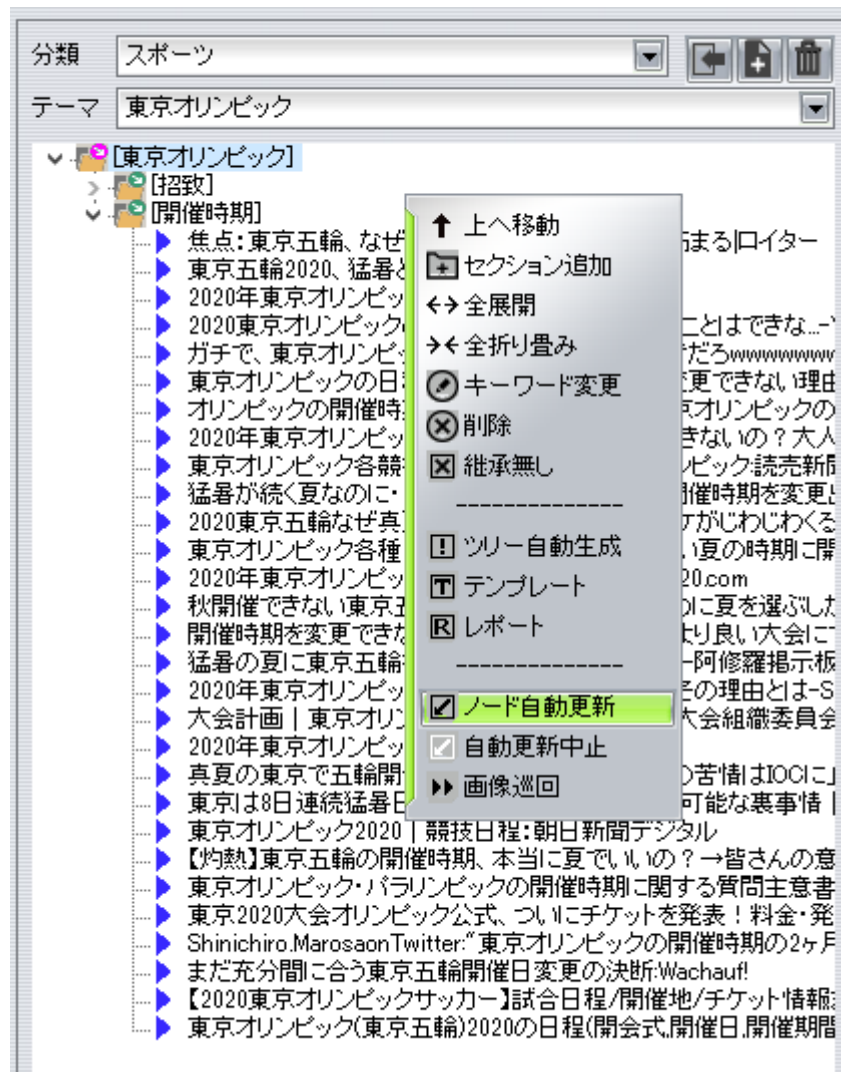


Figure 6.2.1 プルダウンメニュー（ノード自動更新）

6.2.2 自動更新処理の設定 (PRO 版機能)

プロ版の場合は、自動更新に関するパラメータを細かく設定することができます。

- 1) [高精度モード]ではスクリプトを有効化して画面キャプチャを行います。スクリプト必須のサイトの画面キャプチャも正常に実行されます。
このモードでは、ブラウザの読み込み完了信号の後、[スクリプト時待機秒数]で設定した時間が経過後にキャプチャが行われます。
- 2) [高速モード]ではスクリプトを無効化して画面キャプチャを行います。スクリプト必須のサイトの画面キャプチャは行えなくなりますが実行時間は短くなります。
- 3) [データモード]では、ノード登録時のスクリプト制御の設定に従って画面キャプチャを行います。スクリプト有効時には1)と同様に処理されます。

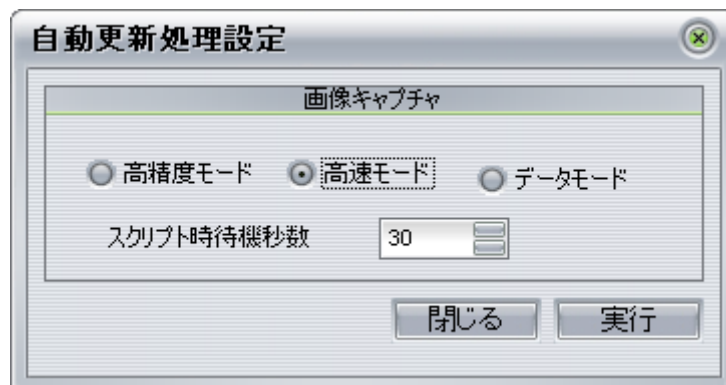


Figure 6.2.2 自動更新処理の設定

[実行]ボタンを押下すると自動更新処理が開始されます。

6.2.3 自動更新処理の実行

ノード自動更新は、選択したセクションの下位に位置する全てのアイテムノードに対して行われます。実行中は下部のステータスバーに進捗状況が表示され、ゲージが動作します。

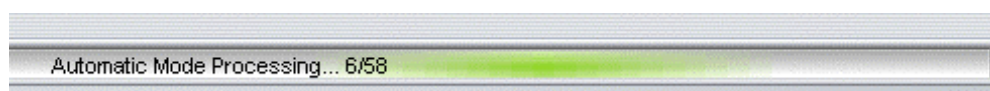


Figure 6.2.3 ノード自動更新実行中表示 (ステータスバー)

6.2.4 ノード自動更新の中止

ノードの自動更新処理は実際に各ノードの登録 URL をブラウジングするため、ノード数が多いと処理時間がかかります。そのため、処理の中止用のメニューが用意されています。

ペイン内のツリー領域で右クリックするとプルダウンメニューが表示されるので[自動更新中止]を選択します。

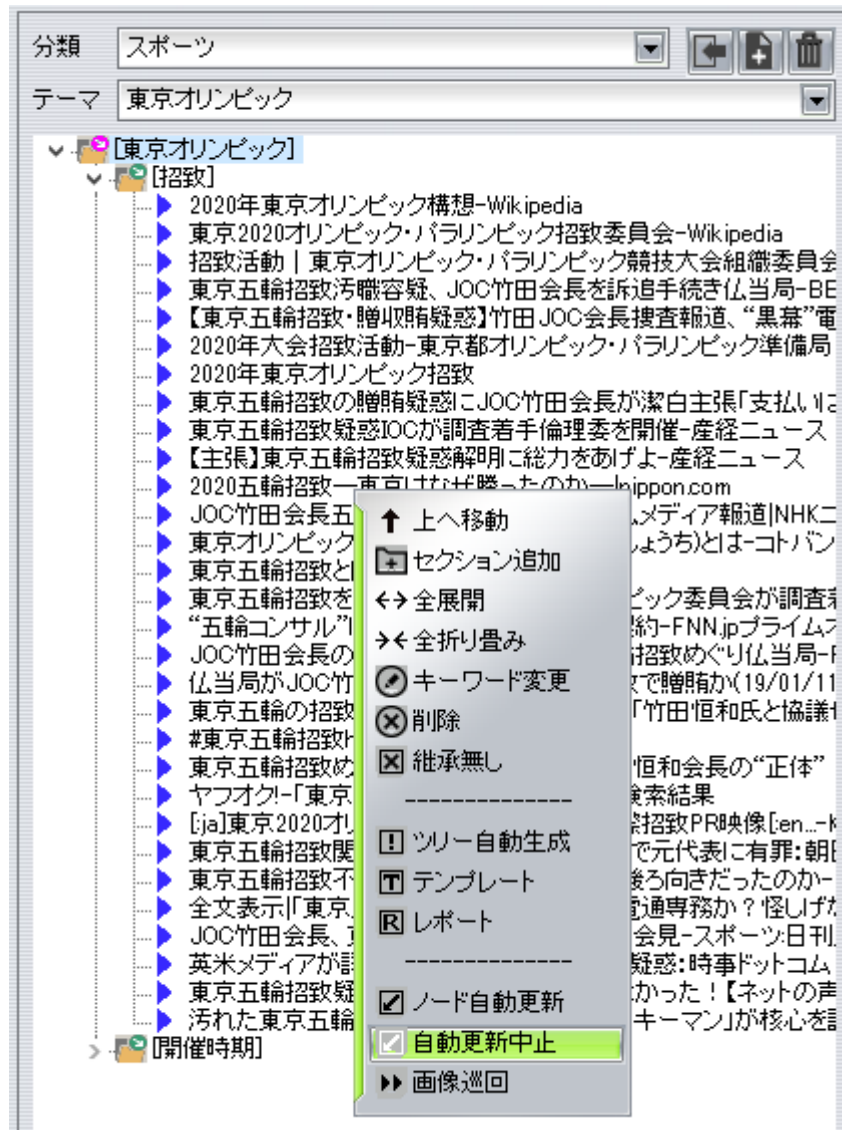


Figure 6.2.4.1 プルダウンメニュー（自動更新中止）

自動更新中止が受け付けられると現在作業中のノードの処理完了後、自動作業を停止し、以下の確認メッセージが表示されます。



Figure 6.2.4.2 ノード自動更新中止

6.2.4 ノード自動更新の制限

1) 自動更新とは

ノードの自動更新は、ノードに割り当てられている URL をブラウザ表示して、その画面キャプチャ画像をデータベースに格納する作業を連続的に自動処理する機能です。

2) 内蔵ブラウザについて

ブラウザとしては Microsoft の Internet Explorer 11 (IE11) をカプセル化した Shell Doc Object and Control Library (SHDOCVW.DLL) の Web ブラウザ機能を利用しています。

3) オプション設定

ブラウザの様々な機能のうち、本プログラムで明示的に制御しているのは「スクリプト禁止/許可」のみであり、他のオプションは IE11 の設定に従います。

4) セキュリティ警告の回避方法

サイトによっては IE11 のセキュリティ規制機能により、様々なダイアログが表示されるものがあり、それによって自動処理が中断される場合があります。この問題を回避するためには、IE11 の設定 (ツール>インターネットオプション>セキュリティ>レベルのカスタマイズ) でダイアログが表示されないオプションを選択します。

5) キャプチャされる画像

画面キャプチャは実際にスクリーンに表示されている画像ではなく、ブラウザが仮想スクリーンに描画するページの全体画像を取り込みます。サイトによっては、縦方向に非常に長いレイアウトのものもあり、また、スクリプトで多くの画像を順次読み込むようなものもあり、サイトのすべてが完全に描画されるまでには相当な時間がかかる場合があります。

本自動処理では、ブラウザの読み込み完了 (Document Complete) イベントを受信してから一定の秒数の後にキャプチャ処理を実行します。そのため、サイトによってはキャプチャ画像に描画されない部分が残る場合があります。

6.3 画像巡回

ノードに格納されている URL のサイトのキャプチャ画像を利用して、サイトの画像による巡回を行うイメージビューワーを実装しています。

6.3.1 画像巡回の起動方法

画像巡回対象のセクションを指定します。以下の例ではルートが対象になっています。セクションが選択されていない場合はエラーメッセージが表示されます。

画像巡回は、指定したセクションの下位に属する全てのノードの画像を順に表示します。ペイン内のツリー領域で右クリックするとプルダウンメニューが表示されるので[画像巡回]を選択します。

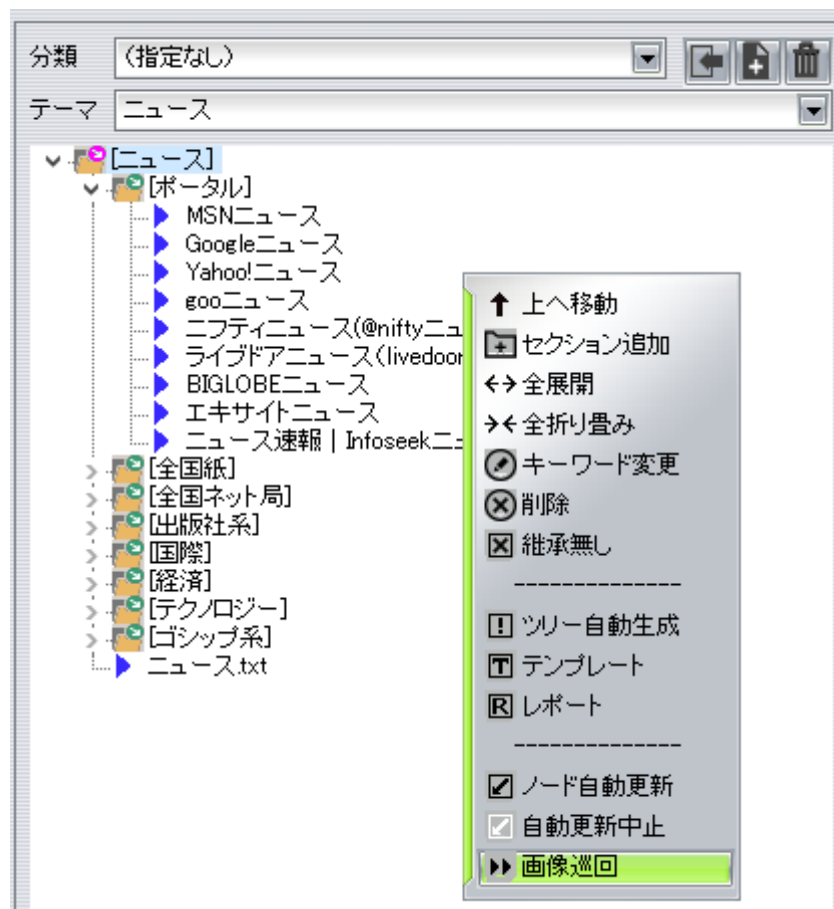


Figure 6.3.1.1 プルダウンメニュー (画像巡回)

既に同じセクションに対する画像巡回を実行していた場合、以下のダイアログが表示され、[OK]ボタンを押すと前回の巡回を再開します。

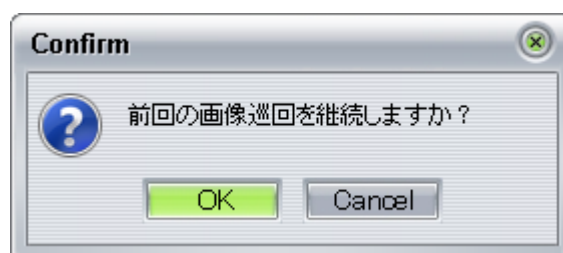


Figure 6.3.1.2 プルダウンメニュー (画像巡回)

6.3.2 イメージビューワ

画像巡回が起動されるとイメージビューワが表示されます。
 イメージビューワはディスクのワーク領域に画像情報を展開し、高速で切り替え処理を行います。
 イメージビューワで表示されるのはノードに関連付けられた URL のページのキャプチャ画像です。



Figure 6.3.2 イメージビューワ

コントロールパネル

6.3.3 コントロールパネルの機能

コントロールパネルは、イメージビューワの各機能を制御するためのボタン類を配置したパネルです。



Figure 6.3.3 コントロールパネル

全部で 11 種類のボタン類が配置されています。
 左から順に

- ①逆順・高速再生 各画像を逆順で約 1 秒間隔で自動再生
- ②逆順・再生 各画像を逆順で約 5 秒間隔で自動再生

- ③逆順・コマ送り 画像を逆順に1コマ送る
- ④スライダー 巡回対象の画像を直接選択できます
- ⑤コマ送り 画像を1コマ送る
- ⑥再生 画像を約5秒間隔で自動再生
- ⑦高速再生 画像を約1秒間隔で自動再生
- ⑧一時停止 自動再生を停止する
- ⑨リピート 先頭と末尾で停止しない
- ⑩画像クリップ 表示中の画像の指定部分を切り出して保存する
- ⑪閉じる イメージビューワの表示を終了する

6.3.4 画像クリップ方法

イメージビューワ内の指定部分を画像ファイルに切り出すことができます。コントロールパネルの[画像クリップ]ボタンを押すと色が変わり、クリップモードになります。もう一度押すと通常モードに戻ります。



Figure 6.3.4.1 画像クリップ方法

クリップモードではマウスの左クリック+ドラッグで切り出す画像部分を指定します。画像上に赤色点線で領域表示されます。



領域表示部分

Figure 6.3.4.2 クリップ領域表示

マウス左ボタンを離すと以下の確認画面が表示されます。

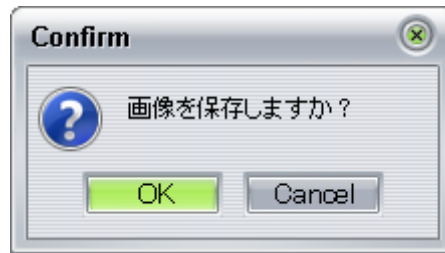


Figure 6.3.4.3 画像保存確認画面

[OK]ボタンを押すとファイル保存先指定ダイアログが表示されます。

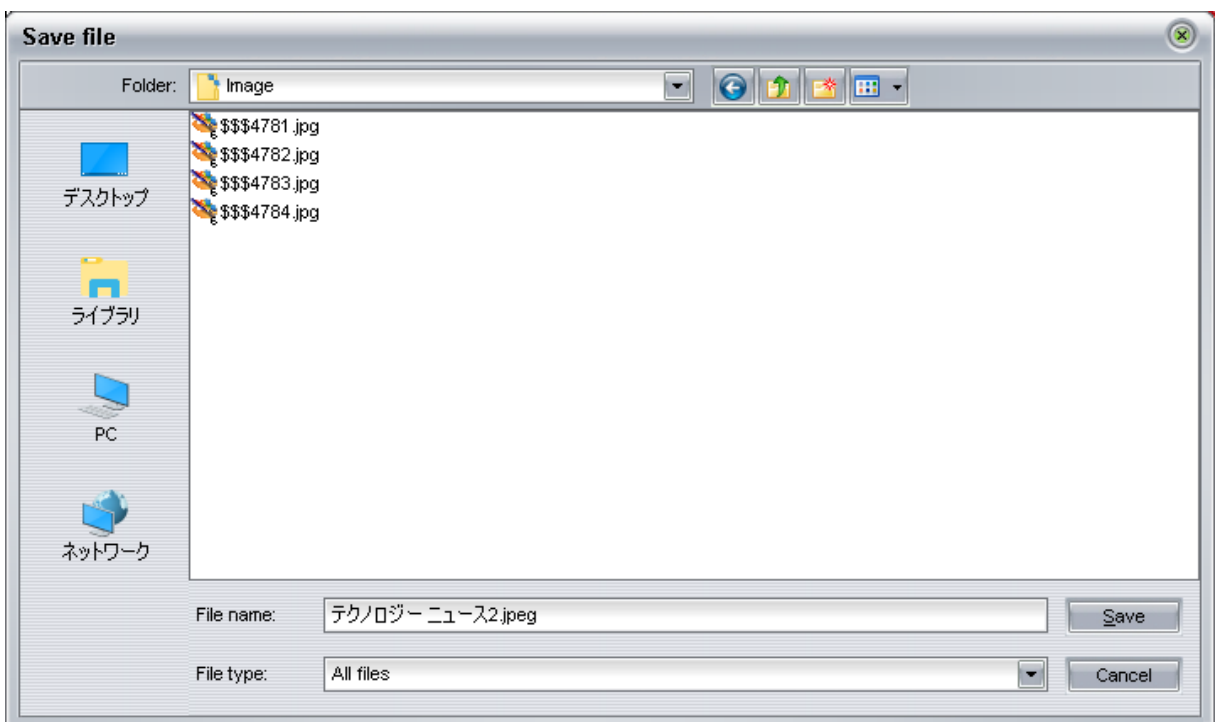


Figure 6.3.4.4 画像保存先指定ダイアログ

ファイル名は自動的に設定されますが変更可能です。ファイルの種類はjpegになります。

保存が完了すると以下の確認画面が表示されます。



Figure 6.3.4.5 画像保存完了画面

保存された画像は自動的に現在のセクションにノードとして登録されます。

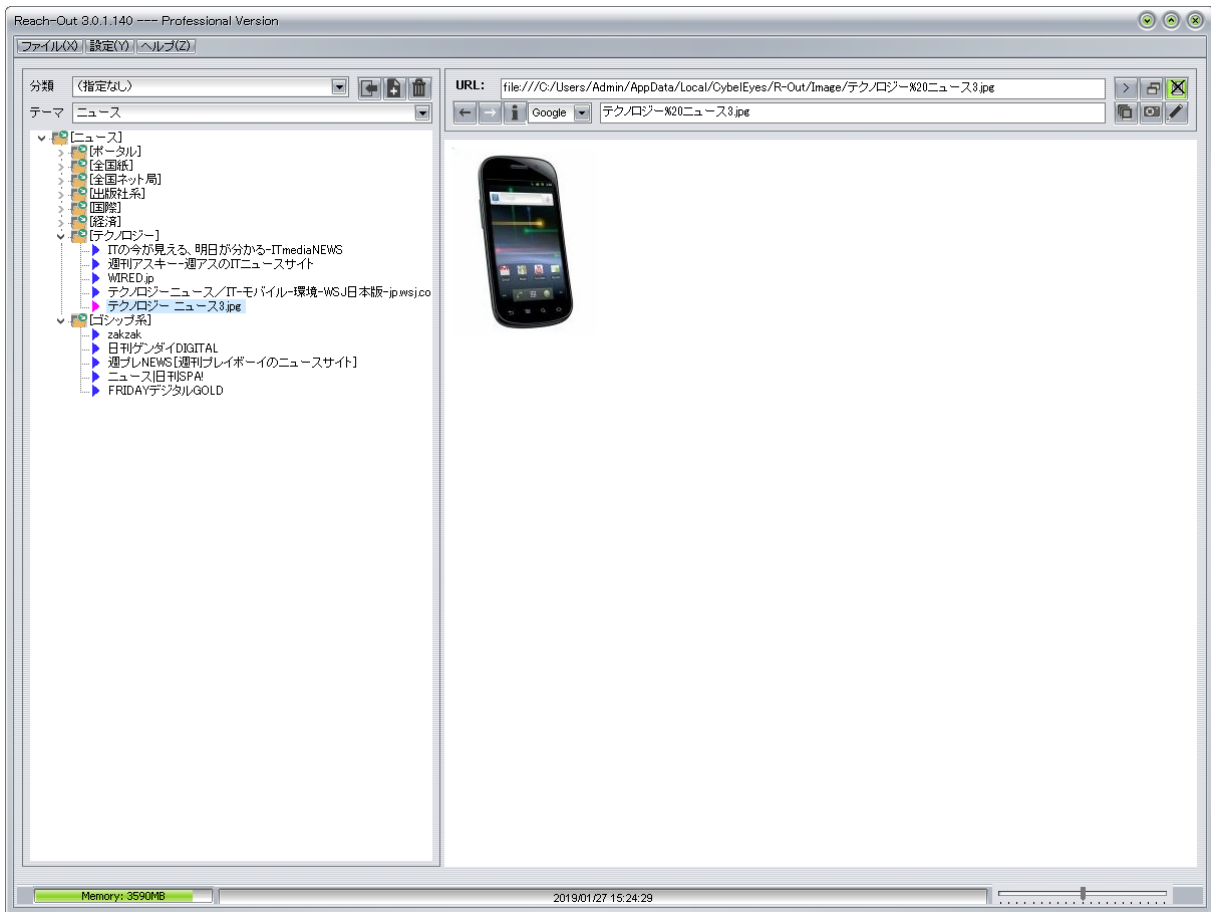


Figure 6.3.4.6 画像のノード登録完了画面

6.3.5 イメージビューワとブラウザの連動

イメージビューワで表示中のキャプチャ画像に対応するノードはツリー構造内でアイコンが緑色表示されます。(表示中ノード)

イメージビューワを閉じると表示中ノードが自動的に選択され、URL をブラウザ表示します。

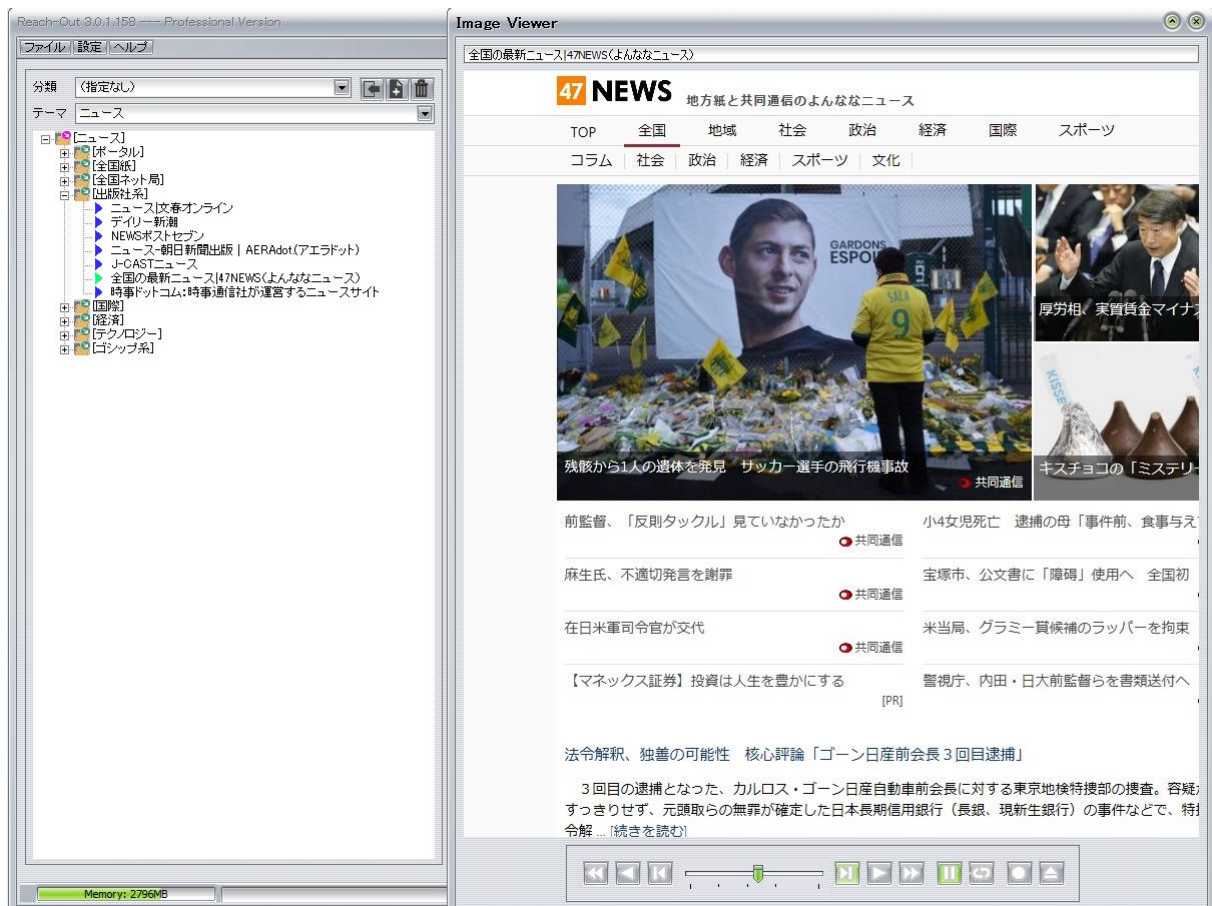


Figure 6.3.5 イメージビューワと表示中ノード

この機能を利用してイメージビューワで表示中のキャプチャ画像から、実際のブラウザの画面へワンタッチで移動することができます。

[Ctrl+Z] (Ctrl キーと Z キーを同時に押す) キーはイメージビューワの表示・非表示を切り替えるショートカットキーとして割り当てられています。

キャプチャ表示画像で移動したいリンクを見つけたら、[Ctrl+Z]でブラウザのサイト表示に切り替え、リンクをクリックすることでブラウザ上のサイトの遷移が行えます。

リンク先のサイトを閲覧後、再度[Ctrl+Z]を押すと画像巡回中のイメージビューワが再び表示されますので、画像巡回を続行することができます。

6.4 レポート

ノードに対応する URL の内容をテキストファイルに書き出し、レポートを作成することができます。書き出される内容は、サイトのメタ情報から抽出します。

6.4.1 レポート機能の起動方法

ツリーペインでセクションを選択し、マウス右クリックからプルダウンメニューを表示させます。

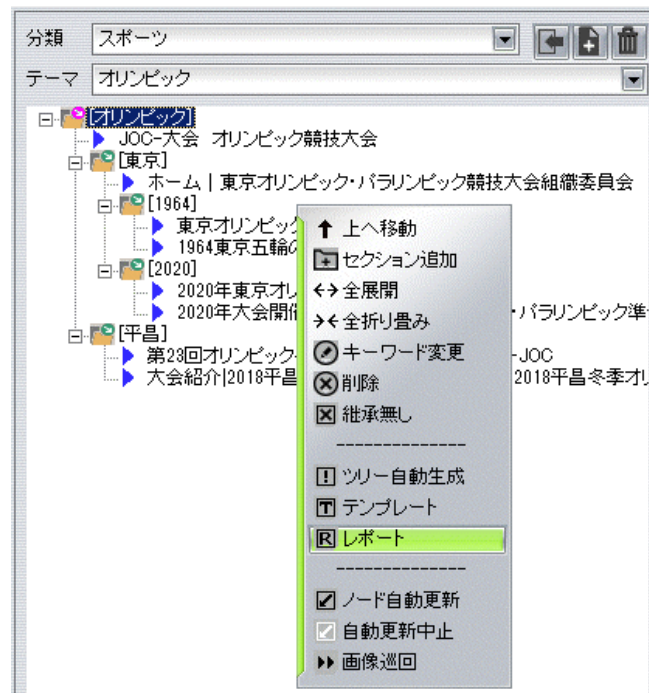


Figure 6.4.1.1 レポート機能プルダウンメニュー

メニューから[レポート]を選択すると以下の保存ダイアログ画面が表示されます。

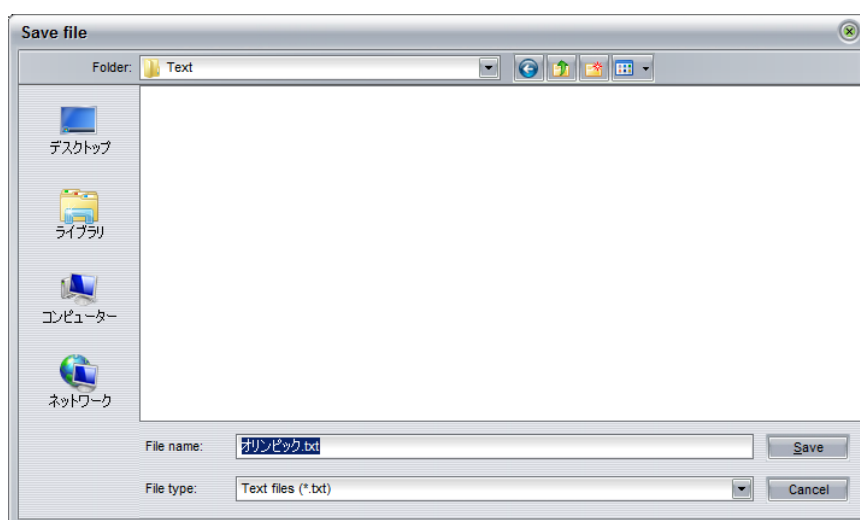


Figure 6.4.1.2 レポート保存ダイアログ

ファイル名を指定して、[Save]ボタンを押下するとレポートファイルが保存され、以下の確認画面が表示されます。

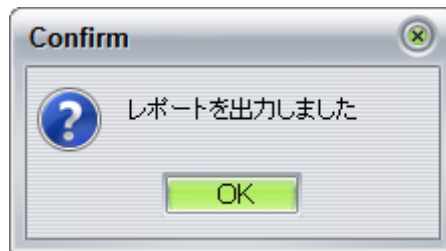


Figure 6.4.1.3 レポート保存確認画面

6.4.2 レポートファイルの表示

作成したレポートファイルは自動的にツリーに保存されます。

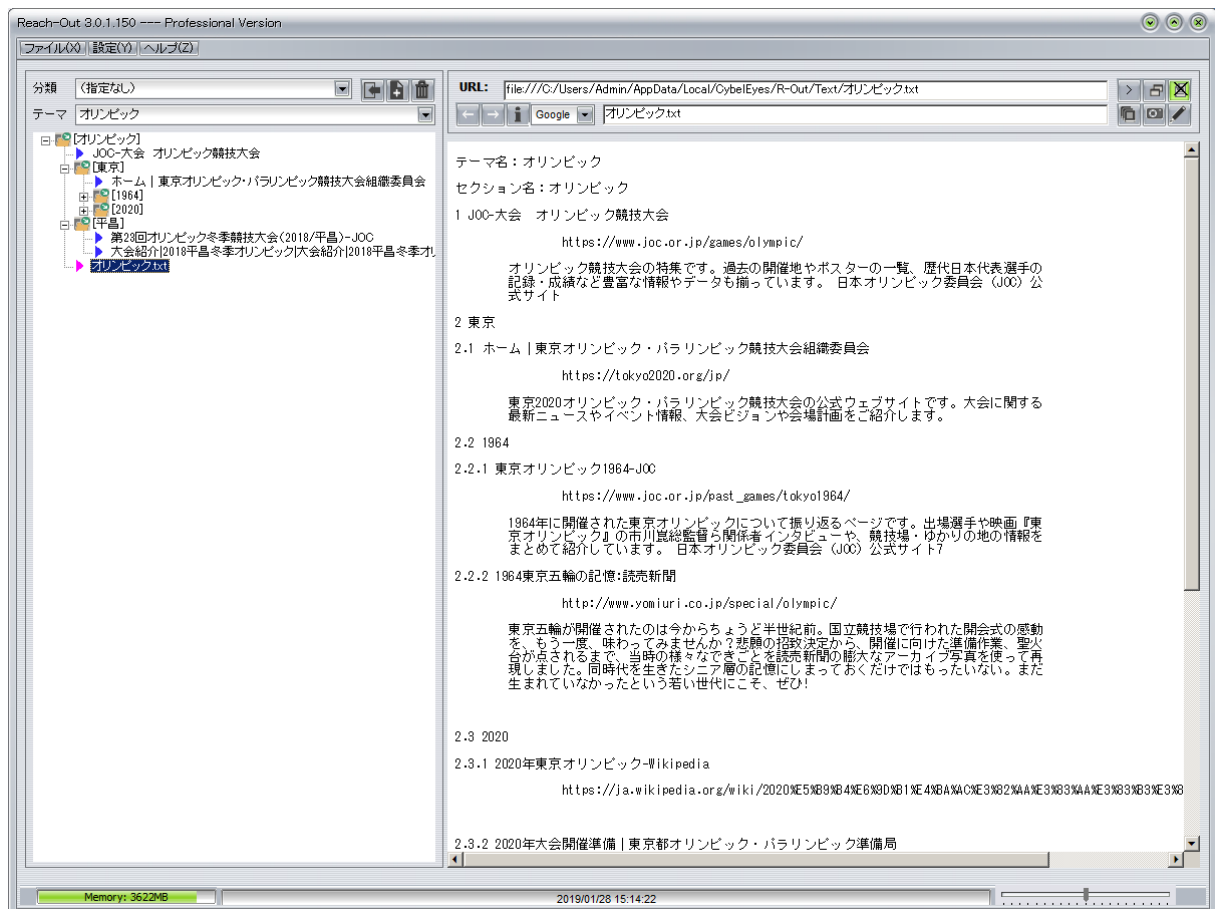


Figure 6.4.2 レポートのツリー登録

レポートはテキストファイル（拡張子txt）として出力されます。
内容は以下の通り。

- | | |
|----------------|----------------------|
| 1) テーマ名 | 対象のテーマ名です |
| 2) セクション名 | レポート対象のセクションのキーワードです |
| 3) セクション | 項番+セクションキーワード |
| 4) ノード | 項番+以下の情報 |
| 4-1) タイトル | |
| 4-2) URL | |
| 4-3) 概要（メタデータ） | |

3)~4)はツリー構造に対応して表示されます。項番は、階層が下がる毎に桁が増える連番形式です。

第7章 データポータビリティ機能

本プログラムで取り扱うデータは、テーマ単位で可搬性があります。

具体的には、テーマはファイルにエクスポートすることができ、またエクスポートされたファイルをインポートすることでテーマとして取り込むことができます。

インポートでは、すべてのデータが取り込まれますが、セクションのみを取り込むテンプレート機能が提供されています。テンプレートを使うことで、複数の類似したテーマで共通のデータ構造を簡単に構築することが可能になります。

7.1 テーマ・エクスポート機能（PRO 版機能）

テーマを指定して、ファイルにエクスポートすることができます。（機能レベル3のみ）
エクスポートされたファイルにはツリーの全ての情報が格納されます。要素がノードの場合はキャプチャ画像が含まれます。要素がローカルファイルの場合は、ファイルの実体がコピーされます。

7.1.1 エクスポートの起動方法

テーマを指定し、メインメニューの[ファイル]から[エクスポート]を選択します。

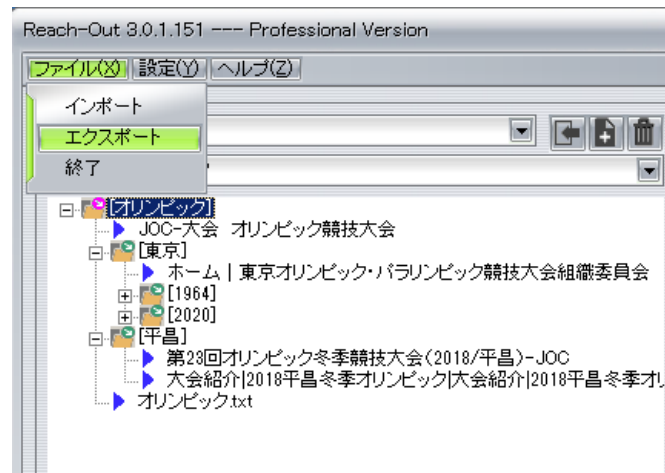


Figure 7.1.1.1 エクスポートの起動方法

以下のファイル保存ダイアログが表示されます。

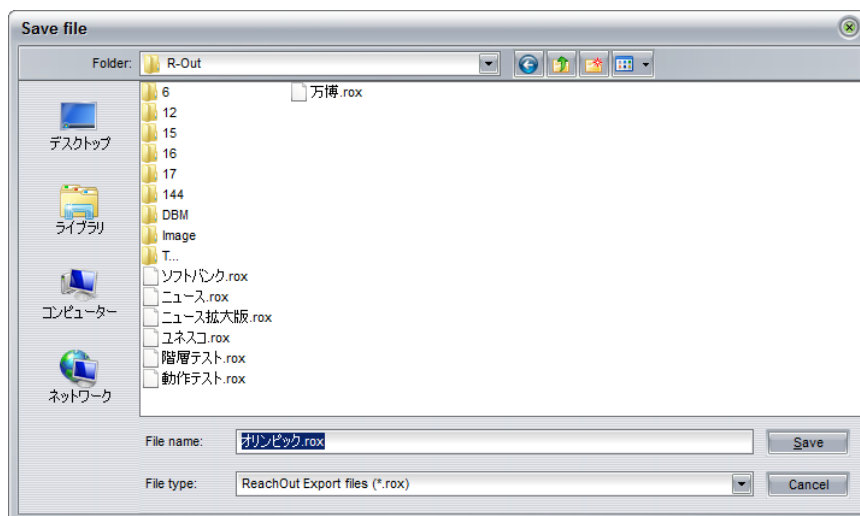


Figure 7.1.1.2 エクスポート先のファイル指定

保存ファイル名はデフォルトで「テーマ名」+拡張子（rox）となります。
保存先を指定して[Save]ボタンを押下すると以下の確認画面が表示され、エクスポートが完了します。

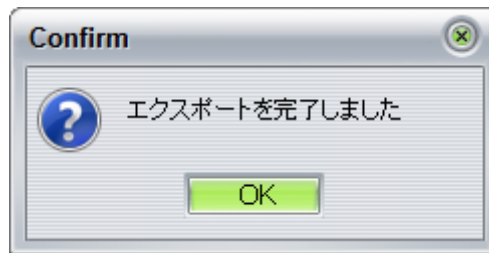


Figure 7.1.1.3 エクスポート完了

7.1.2 エクスポートされたファイル

エクスポートされたファイルは、拡張子「rox」を持ち、全ての「ReachOut」アプリケーションからインポート可能なバイナリファイルとなります。

テーマにローカルファイルが含まれている場合は、そのコピーが rox ファイルに内蔵されます。

rox ファイルのファイル名は任意のタイミングで変更することができますが、デフォルトのファイル名から変更するとエクスポートされたテーマのテーマ名は失われます。

7.2 テーマ・インポート機能

エクスポートされたテーマをインポートすることができます。

7.2.1 インポートの起動方法

テーマを指定し、メインメニューの[ファイル]から[エクスポート]を選択します。

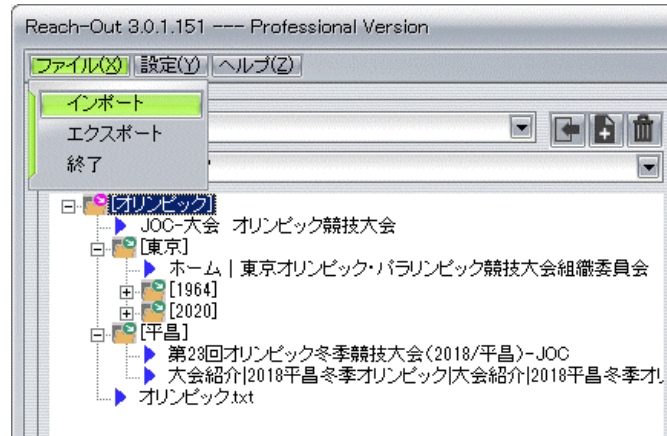


Figure 7.2.1.1 インポートの起動方法

以下のファイルオープンダイアログが表示されます。

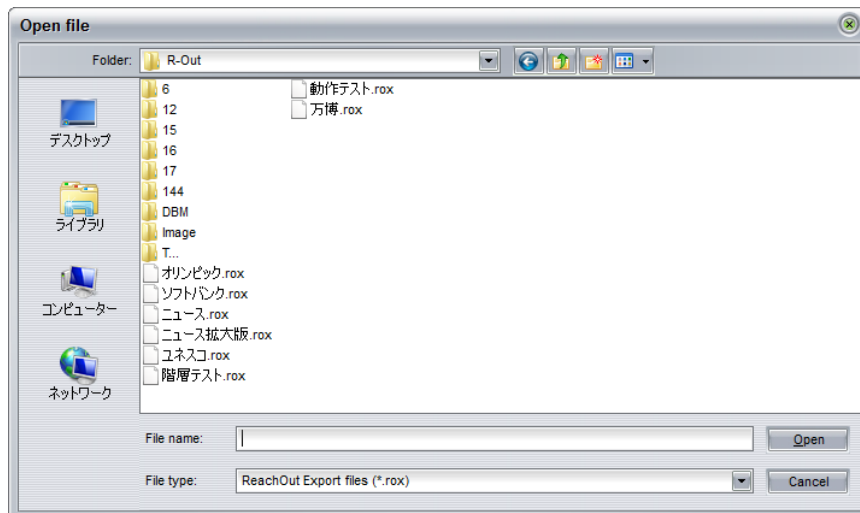


Figure 7.2.1.2 インポート元のファイル指定

インポート対象ファイル名は拡張子が「rox」のものです。
ファイルを指定して[Open]ボタンを押下すると以下のテーマ名指定画面が表示されます。

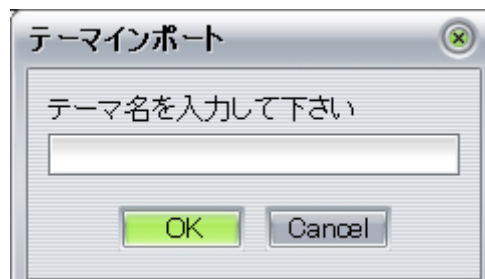


Figure 7.2.1.3 インポート元のファイル指定

既存のテーマと重複しない名称を指定します。内容は同じでも問題ありません。
[OK]ボタンを押下すると以下の確認画面が表示され、インポートが完了します。

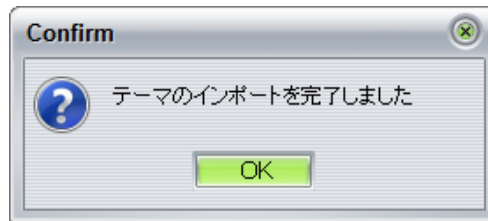


Figure 7.2.1.4 インポート完了

7.2.2 インポートされたファイル

インポートされたファイルは、インポート時に指定したテーマ名のテーマの下で、元と同じツリー構造を再現します。

元のテーマにローカルファイルが含まれていた場合は、そのコピーがディスクのワーク領域の適当な場所に元と同じファイル名で保存されます。

7.3 テンプレート機能

エクスポートされたテーマはテンプレートとして利用することもできます。この場合、テンプレートとはツリーのノードを除いたセクション構造を意味します。ルートセクション以下、階層化されたセクションにより構成されるツリー構造は、それ自体が体系化された情報構造体とみなすことができます。テンプレート機能は、同一のセクション構造を異なったテーマに適用することで、情報構造体の速やかな生成をサポートします。

7.3.1 テンプレート機能の起動方法

ツリーペインでテンプレートを適用するセクションを選択し、マウス右クリックからプルダウンメニューを表示させます。

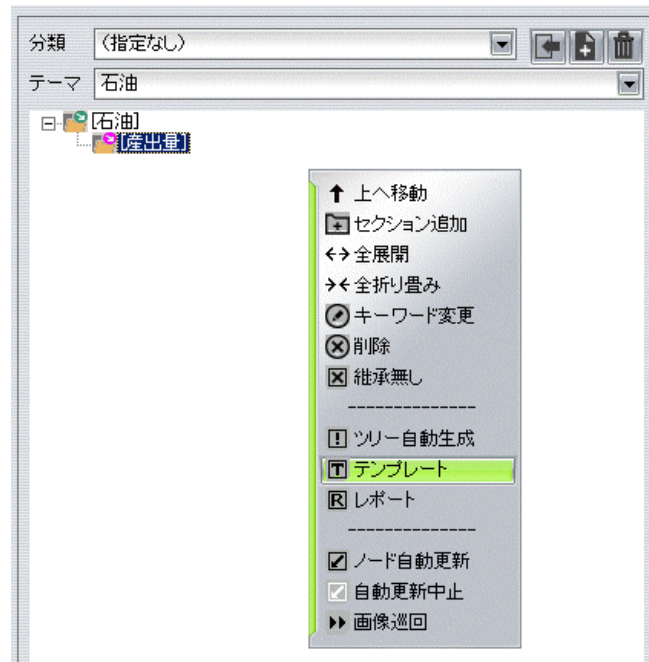


Figure 7.3.1.1 テンプレート機能プルダウンメニュー

メニューから[テンプレート]を選択すると以下のオープンダイアログ画面が表示されます。

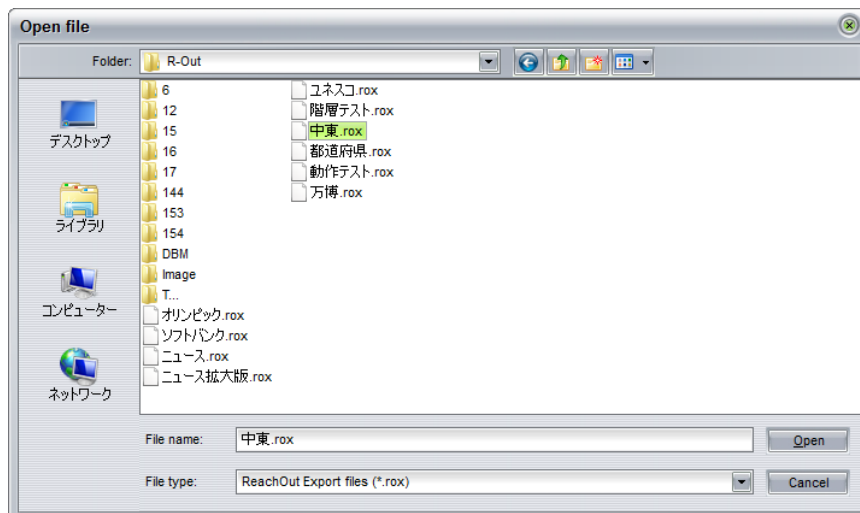


Figure 7.3.1.2 テンプレートオープンダイアログ

ファイル名を指定して、[Open]ボタンを押下するとテンプレートが適用され、以下の確認画面が表示されます。

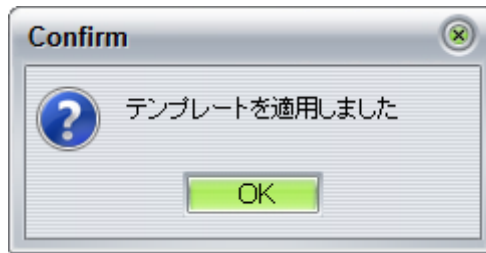


Figure 7.3.1.2 テンプレートオープンダイアログ

7.3.2 テンプレートの適用例

前項の処理の結果、ツリーは以下のようになります。

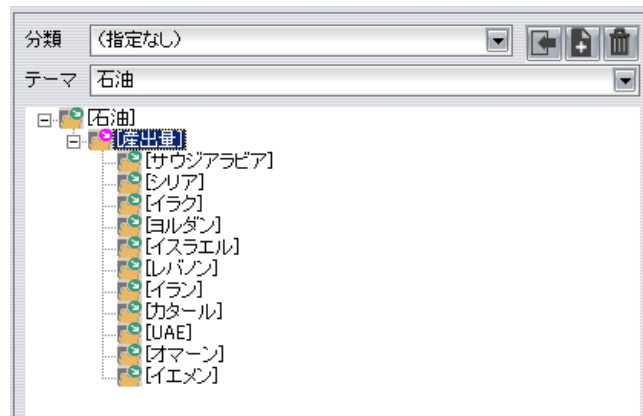


Figure 7.3.2.1 テンプレート適用結果

テンプレートとして使用したテーマは以下のものです。

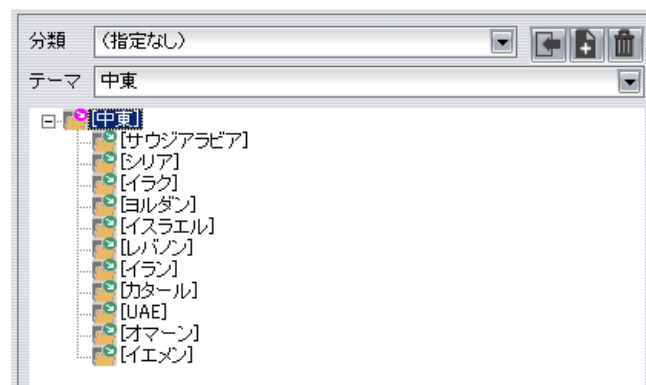


Figure 7.3.2.2 テンプレートとして使用したテーマ

2つのツリーを比較するとわかるように、テンプレートを適用すると適用先のセクションの直下にテンプレートとして使用したテーマのルートセクション直下のセクションが配置されます。

付録 A Twitter 投稿の DB 登録方法

A.1 検索エンジンを Twitter に設定する

検索エンジンプルダウンリストで Twitter を選択します。



Figure Appendix A.1 検索エンジンの設定

A.2 テーマを登録する

例として「ユネスコ」を登録します。
 テーマの登録時には検索エンジン設定にかかわらず「Google」で検索されます。



Figure Appendix A.2 テーマの登録

A.3 テーマにセクションを追加

例として「無形文化遺産」を追加します。
 セクションの追加時には検索エンジン設定に従って「Twitter」で検索されます。
 検索キーワードは、上位セクションを継承するので「無形文化遺産 ユネスコ」となります。



Figure Appendix A.3 セクションの追加

A.4 記事を選んで表示

Twitter の検索結果から、記事を選択し、クリックするとオーバーレイ表示されます。



Figure Appendix A.4 記事のオーバーレイ表示

A.5 [DB 登録]ボタンを押す

この状態で[DB 登録]ボタンを押します。

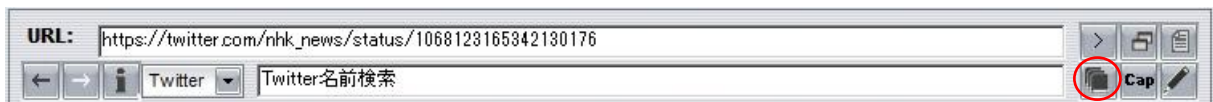


Figure Appendix A.5 DB に登録

確認音（設定されている場合）が鳴り、ツリーに新しいノードが追加されますがタイトル表示は「Twitter 名前検索」となります。

A.6 オーバーレイを閉じる

オーバーレイ画面の右上の X マークをクリックして画面を閉じます。
「Twitter 名前検索」と表示されていたノードが正しいタイトルで表示されます。



Figure Appendix A.6 ノード登録完了

これ以後、他のサイトを表示した状態でこのノード（上図で赤で囲った部分）をクリックすると登録した記事が直接表示されるようになります。

付録 B サンプルデータ

B.1 サンプルデータのインポート

インストール時にはサンプルテーマとして「ニュース」が格納されています。デモ版では、ほとんどすべての機能が使用可能になっていますので、サンプルデータを使用してチュートリアルを行うことができます。

最初にサンプルデータをインポートします。[ファイル]メニューから[インポート]を選択すると以下のようにインポートデータの選択画面になります

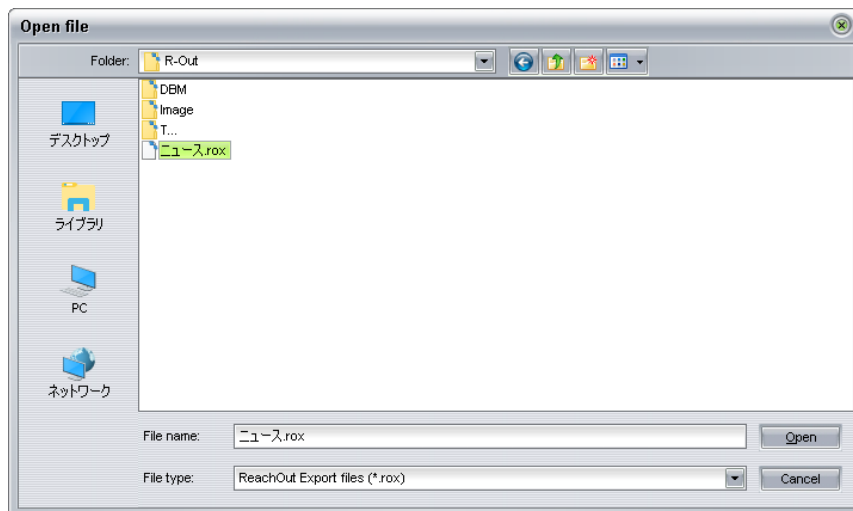


Figure Appendix B.1 サンプルデータ・インポート画面

「ニュース.rox」を選択し、[Open]ボタンを押すとテーマ名の入力画面になります。

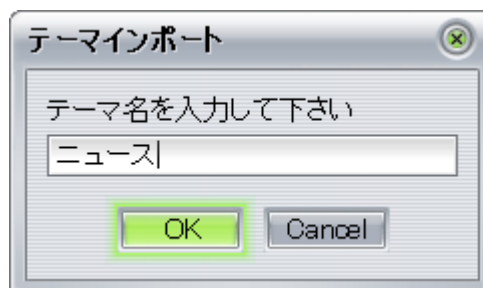


Figure Appendix B.1.2 テーマ名入力画面

テーマ名（何でもよい）を入力し、[OK]ボタンを押すとテーマのインポートが開始されます。

インポートが完了すると完了確認画面が表示されるので[OK]ボタンを押します。



Figure Appendix B.1.3 サンプルデータ・インポート完了

B.2 サンプルデータの利用

サンプルデータのインポートが完了するとテーマ「ニュース」(またはインポート時に指定した名称)のツリーが表示されます。

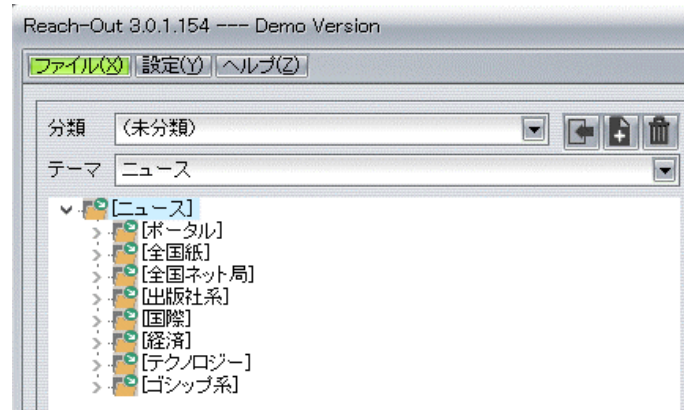


Figure Appendix B.2 インポートされたツリー

B.2.1 画像巡回機能

インポート時には既にキャプチャ画像付きのデータが格納されていますので、画像巡回機能を起動します。

ツリーペインで右クリックしてツリーメニューを表示させ、[画像巡回]を選択するとイメージビューが起動されます。

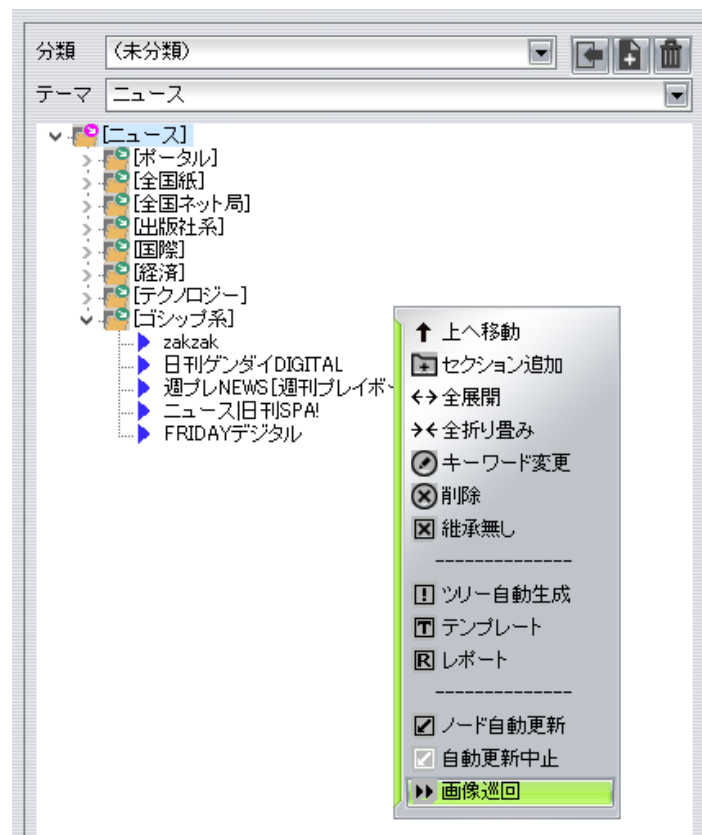


Figure Appendix B.2.1.1 ツリーメニュー

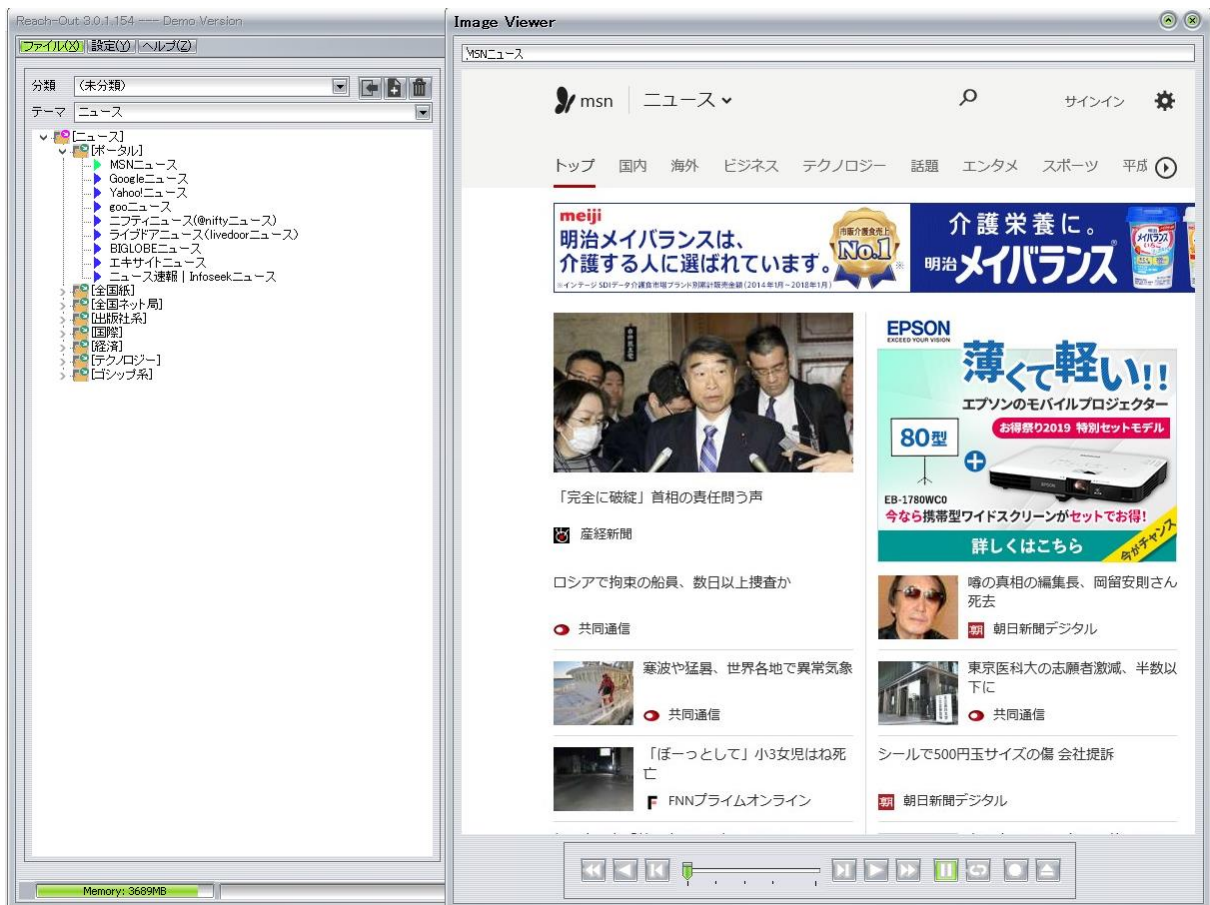


Figure Appendix B.2.1.2 イメージビューワ

イメージビューワが表示されたら、「6.3.3 コントロールパネルの機能」を参照して画像巡回を行います。

B.2.2 自動更新機能

インポート直後の画像情報は古いままなので、ノード自動更新機能で最新のサイトのキャプチャ画像を取り込みます。



Figure Appendix B.2.2.1 ツリーメニュー

ルートの[ニュース]セクションをクリックして選択してから、ツリーペインで右クリックしてツリーメニューを表示させ、[ノード自動更新]を選択すると自動更新設定画面が表示されます。

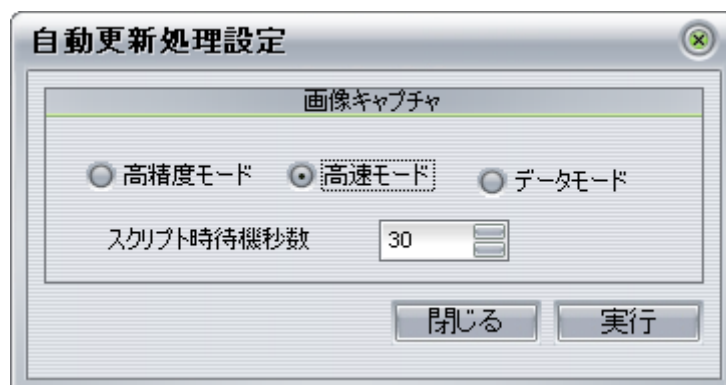


Figure Appendix B.2.2.1 ツリーメニュー

「データモード」を選択し、スクリプト待機秒数を 10 にします。[実行]ボタンを押すと自動更新処理が開始されます。処理中は画面を操作しないで下さい。

自動更新処理が完了すると以下の確認メッセージが表示され、[OK]ボタンを押すと自動的にプログラムが再起動します。

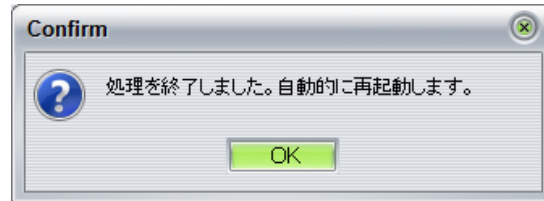


Figure Appendix B.2.2.2 自動更新完了確認画面

再起動後に「B.2.1 画像巡回機能」を実行すると最新のデータが表示されます。

「キュレーション・サポートツール」
Reach-OUT Version 3.1
ユーザーズ・マニュアル

2019年2月4日 第1版発行
シーバライズ株式会社

本書の一部または全部を著作権法の定める範囲を越え、無断で複写、複製、転載することを禁じます。

©Copyright, CybelEyes Inc., 2018-2019
